月乃出羽路

二十

和書門 類
二大一五七 號
一三六 函
一〇 架
七八 冊

内閣文庫
和書 類
二九一五七 號
七八 冊
二七七函
一八 架

内 一〇九七四號

内閣文庫		
番號	和	29157
冊數	78	(60)
函號	177	901

同 出羽道仙北郡
柿田板見内西村 巻二十 下上
[illegible]
校

日本政府圖書
圖書局文庫

〇月出羽道 二十巻 〇仙北郡ノ部 〇拂田邑之條

〇かゝた川

拂田本郷

属邑五ヶ村之

〇うえかたゝ 一 上堅田邑

〇たかなし 二 高梨邑

〇はしもと 三 橋本邑

〇ほりみない 四 堀見内邑

〇ふくた 五 福田邑

内一〇九七四號

慈烏川

自出羽道二十米

の

ヒ記

○拂田邑

○本郷(オヤハン)之

○属邑五ヶ村

○合六村之

祕閣圖書之章
日本政府圖書

烏川 廿巻

○挿田邑 ○里正重四郎 後藤氏之

○此村六郷の驛の北一里にあり東ハ土崎西ハ高梨南ハ上挿田北ハ
本堂城回板見内なといふ村々に接り挿田ハ古来坂田といひし近き世に
挿田と作りかへたりと傳ふ堀田相模守某の遠祖ハ此地に栖こ
給ひしとぞ又はむ古老の談話によりてその古城の址を大日如来を館神と称
まうしはら村の総鎮守と早坂好井とて霊泉ありけれど今ハ浅くなるべし
此水を城中の要水とせしとぞ考ふに永慶軍記六巻に秋田山北所合戦の
条にも戸澤九郎盛安の領地の境荒川といふ所の要害に近藤筑後
守楽次といふものありけるが飛脚をもてこれを告しかば盛安これをきゝて
安る沢田とかいふ所に族楯岡の城主小笠原右衛門府をば角館に
来てあれハ此事をも内談して楯岡の中の古へより秋田と山北と數代戦ひて

○挿田邑

以ことと終に山北の不覚を取りぬると言ひ及りて我等若年のころ
父祖の物語を聞けるに一揆秋田勢すくなくして戦ひにまけて松前へ
蝦夷を語らひ大勢を以て毒箭を射りも攻め来りしを不叶檜山
八月を討らて当浦に引今に至りとかく申との事なり此度城介大
軍を以て攻来りしを防くに足らす却て迯る処に急き境に馳を向て追ひ散し
給へといへとも彼等は盛安をと領掌して角館を打立給ふに相伴ふ人々には
楢岡石衛門尉同七五郎本堂弥六郎赤平勘解由同作十郎
門屋嘉兵衛尉鈴木石兵衛尉門屋小太郎白岩善右衛門尉
中館安房守鴬埜加賀黒羽根弥兵衛尉堀田梅洋小白川
大堅関川和野兵左衛門尉を先として都合千餘人引具して
淀川を隔て陣を張りたると見ゆる処より久保田の寺町前迄

堀田金六ハ堀田家正統の者なりしか今ハ衰へて今は庸（ヤトハ）れるにして
世に具目を業（ナリハヒ）とし…堀田家の累祖代々連綿の古家系譜を
傳へ持ちけるに…して紛失（ウセ）し今ハ家に伝る事なし此度大官（オホヤケ）より
家苗を堀田と…ハ悼の関の陰に至りしを止めたるを以て今の田を省（ハブイ）て
堀と名乗るへきよし仰を加へられしを恥て堀金六か家に伝ふる堀田の
上祖ハ戸沢家に属（タグヒ）して有りし家にや今古城山を並て真山中にして
楢を館前邑とて享保のむかしより今も家三四戸（ヨツ）有り里正後藤氏也
此山脚（ヤマモト）に家居（イヘヰ）して住（スメ）り享保郡邑記に 掛田村を本郷として
枝郷十五村有りとて 中村 横関 田中 森崎 烏川 赤合
念仏屋鋪 稲荷 牛嶋 高柳 境田 田埜尻 川原 杉本
館前とあるも今ハ掛田郷にして総名に称（トナ）ふ寄り郷十六村有り

掛田村

○高梨村○堀見内村○上野田村○橋本村○福田村之
枝郷享保日記と今ハいつこにも有ぬ因此外ニ記せ
○高柳家 古二戸 今三戸 ○泓清水 長左エ門屋敷とふところより享保の
昔ニハ歸氣村とて家七戸ありし処ニ好む清水ハその村の縁起なり
○牛嶋家 古三戸 今一戸 ○念仏屋鋪 古八戸 今一戸 ○長瀞 一戸 享保日記ニ見えず
○上排田 享保記ニハ排田のみぞ見えたり 古十一戸 今家十戸なり 下排田とふ村なり ○畈田 古五戸 今三戸
○向河原田尻家三戸享保記ニハなし ○向川端家二戸享保記ニなし
○下排田家十四戸並享保記ニなし
○寶龍権現舊社ノ跡高梼風鈔とふ処なり ○斎主後藤忠兵衛
○館前家四戸 新古共ニ家員同し
○大日如来社古城の跡ニ鎮座祭日四月八日 ○斎主 五左衛門

○真山権現とて石神を斎霊場之古城跡ニて遠内第一の景地ニして舊地之
○森崎 新古二戸 ○横関 古四戸 今一戸 ○田中 古五戸 今一戸
○早坂家 二戸 享保日記ニ此村見えず ○早坂清水とて坂下ノ路の傍ニあり
同名雄勝郡稲庭の近辺小野寺の古城山岸鶴ヶ柵跡ニもあり城の水井を城中よ
掘揚たり此坂を上りおりし早とて来る急坂あり此堀田城と稲庭の
城ニ較ひて早坂とゝ名附つるむことの此速坂好井ハ排田邑最第一の良泉也
○烏川 古四戸 今二戸 此村とつて吉丁邑まて排田の草創乃地ことにて鴉河乃
水源と陸奥国の南部郡ニ大岐を経て元本堂まて本堂城回犀内川ニ交りぬ
今ハ井堰の如き小川なれとも古ハ川幅も広かりしと思わる早く義経の月吉吉邑ハ越し
源三位頼政朝臣の知行地ニて其ありとも烏川流れて尾張国琵琶の小落なりし
同名も多かりおのれ考ふるところ五月の末つ方此処を〔?〕て通りしとき誦し歌あり

五月雨ニ溜井と成けれハ川三ツ四ツ二ツ流れて同じ　○真澄

○森合 古八戸 今一戸　○八幡村家六戸郡邑ニハ此村なし

○八幡宮 祭日八月十五日　社主 長左エ門

此社と本山と称すハ真字和し並て雄鹿の嶺山に神在ニ擬シたるものにや

○本山清水といふ所ありしをいや昔の神の御手洗とや云ハむか　実泉に

とおもしきをなれと速坂清水とやいふを好井とおなし平坂にも水乃好美井(マシミツ)とて

六郷ニ名ニおへる似手児(ニテコ)の清水なりきしとも　おほくありける泉に

○谷地中家二戸　郡邑記にハとれハ此村ハ此名なし多け

○田地字(タトコロノナ)

○中田 ○上川原 享保のころまでハ家四戸ありし此に ○馬巻 ○中村 ○家跡 ○地蔵堂あり

○福田ともいへり村 ○堀尾 ○寶龍を訛(ヨコナマ)りて言ハ古き此字も多し

○杉本享保日記小家二戸ありし処と　○大谷地中 云々 とあれ　谷地は萢中なとの

名ハ村ニいとも多かり 今ニ谷仏屋敷を持しハ谷仏谷地と言ひし処と古老のいへり 此

家を堂とおもしきまてハ路ハ踏(アメ)はかりと流水を吹出を以て立始し名に此邑一戸托宗の碑あり

○堀田五妙義井(イツミシミツ)

○涌清水(アケシミツ) ○むかしありし七戸(ナツヤ)の跡より湧涌(ワキ)出る 真清水に

○小清水 ○此寒泉古城山の裾ニ出れと涌(ワク)ことも乏しく泉も衰(ミツ)ひたり

○本山清水 八幡社の道ニ近き所ニ湧出れハいさ清水とも云ひて飲むとのふ

○速坂(ハヤサカ)清水 あかり中にも水いとよし 味ひ甜(アマ)かりし

○杉清水 ○舘前邑大杉の根(モト)一の鳥居の前路の傍ニあり 此寒泉(シミツ)五月ニ至れハ涸ぬと称り

むかし早月乙女(サツキヲトメ)らかおほえなる腰禅(タスキ)を此にかけて行かひし事ありその世まてあり

神供に酒ハ変ぬを仏の閼伽に汲とゆひとは幽象(ミツハ)のいとまにあるとそ

○堀田家系譜

紀正盛○堀田加賀守従四位侍従

- 正信○上野介四品
- 安政○中務少輔 脇坂淡路守安元 石跡備中守
- 正俊○筑前守四位少将
- 正英○對馬守
- 正頼○主税
- 正仲○下総守四品
- 正虎○伊豆守
- 正範○備後守
- 正峰○信濃守
- 正永○民部 大和守

或云本国尾張ト見ユ云々

右見于天明武鑑

○總家員六十一戸

○同人員四百八十四人

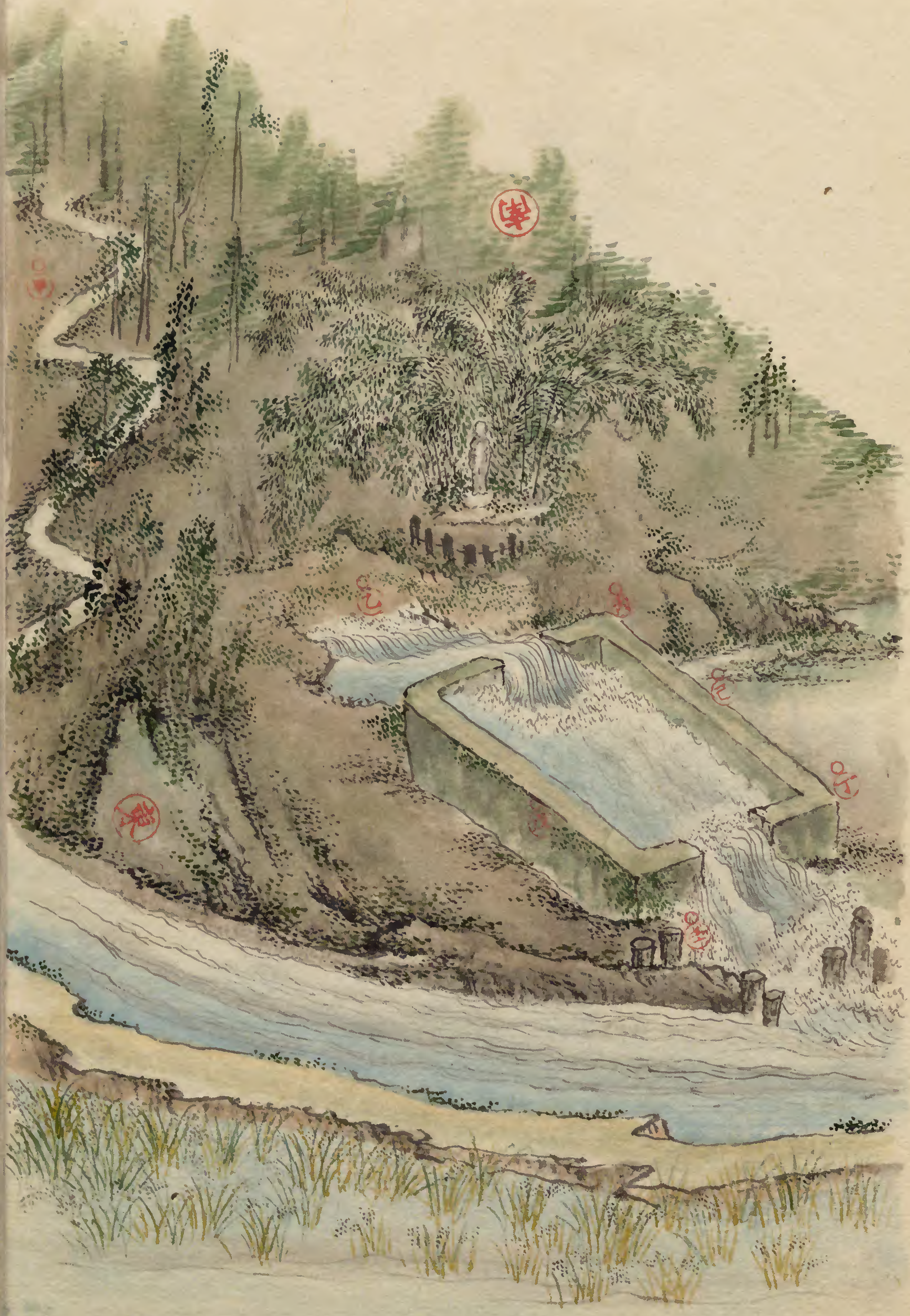
○同馬員九十三匹

甲大日如来は堀田の古城蹟に鎮座し
宮殿の傍に乙韓櫃石とて奇石あり
此石の名は金澤の北の浜其外にも
多かる名にていつにても由来なる
丙二の鶏居より以上の登る
社地は廣方四五間斗あるといふ
此地にいふ二の廓をむまで
大日と真山との間を本廓の
跡といへり

甲
真山の石神の三本の
大杉といつともしられぬ
木どもに社内は二十間四方
総城山の内ふくいと高き地に
本磨の奥にむかし
此石神を蔵まりし
ところなりや

国立公文書館
National Archives of Japan

甲 鳥海ヶ嶽 午未の方
乙 保呂羽峯 申酉
丙 神宮寺岳 戌亥
梅田の古城跡
丁 真山 寅卯
遠近
甲
乙
丙
丁



甲 速阪の寒泉。河添の路の向川岸に在り。

乙 清水の湧沸口。石地蔵の立る下つ方へ。

丙丁 石盤の亘二尺斗。

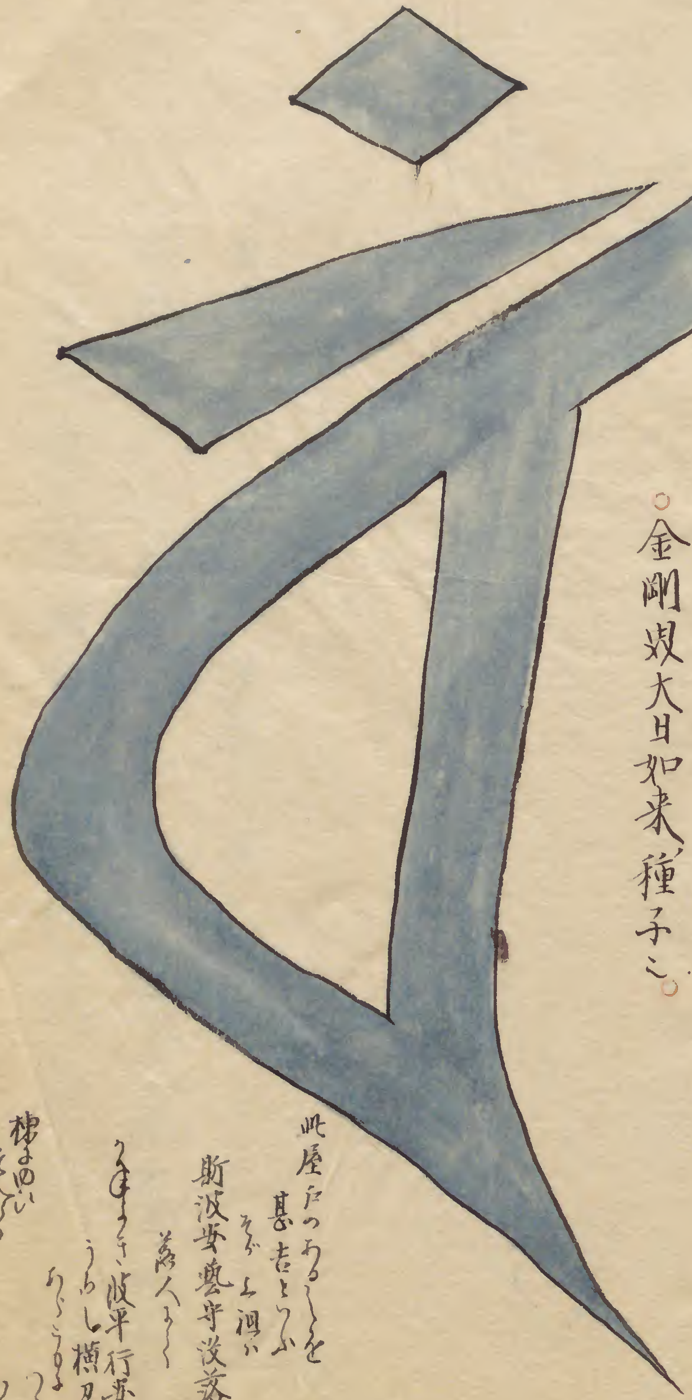
戊己 同横亘凡一尺。

庚 森合村。

辛 早坂村あたり。田の中に在り。

壬 清水ハ[illegible]

癸 荒川の流に落ス。



○念仏屋敷といふ一戸家の林の田よ古碑あり
年号ハ○磨滅せり梵形のミ残りたるを
縮写なして是を挙く
○金剛界大日如来種子こ

此屋戸のあることを
甚吉といふ
それが祖は
斯波安芸守没落のとき
落人として
来まりて波平行安の
うちし横刀を
もちたりける
つたへ
もちたり
棟木にあいし
そへて
伝ふといへり

○甲八幡村、○乙八幡宮
此神地を本山といへり

○正一位稲荷大明神　堀田の相撲狐

此稲荷ハづゝま鎮座ありしを　狐石寄稲荷冊子とふ

あし少〻へうりしかハ此處に挙ること

まへやしき　ひだ　まち

○上野田邑

一

四十八寒泉　○上野田村　壹　○里正市左衛門　藤井氏

○此邑東ハ土寄西ハ高梨南ハ安城寺北ハ掛田村ニ中れり
慶安元年七月十日の御検地帳の表書に出羽國山本郡上野田村
とかゝれたり　延宝七年十月二十七日間盤帳といふ田文の表紙に
「山之郡金澤東根之内上野田村」とかゝれたり分村ニ八村と唱て遠くいへる
よしをかてかくハ名附られたるとぞ此邑に四十八泉の清水あり世に称しき
地なり　枝村ハ享保日記をといふてつこしかれり
○樋口野　家古九戸今四戸　○川原田　家二戸　○胡頽子木田　二戸
○前田　一戸　○川原　一戸　○中村　新古家四戸
○春日大明神社　○此中村の廻平の方に杉原あり昔ハ荒川の岸辺よ
祢宜なし岸にあれて今此の神地を定め給へ其古きところの跡を土民

掛田村

大名字潤と訓るなり。祭日九月九日 ○祢主 ○喜左右衛門

○谷地家一戸。○八千清水。藤三郎の宅地にあり。

○沖田二戸 郡邑記に深田村と見ゆ。深沖といへるの誤なり。

○四十八村。新古家一戸。此邑に四十八ヶ所の寒泉ありしとなん。創めは四十八清水邑と称へしといふ。中古より呼びまつりしなり。清水は云ひ省きて今はしらず。たゞ八千むらといへるあり。此四十八泉は田の面なれば此京林陰るなどより湧しと湧沸こぼる中に杜鵑の清水といへるあり。むかし新卿といふ仏者ありて此泉をもて御仏供を炊て奉りしそ。此名の奈有りしなれ。此一泉四十八の中れ妙義井とよまれたりければ、邑名となりにし。

○藤内闇 家二戸 ○田地字 ○神屋敷 ここは春日社の大明神渕は茂りしを此地に遷しまつり、此社は今の中村の地に遷しまつりぬ。

○大名字潤 大明神ならびにとこにいへること

○千刈田

○沼田 ここにとなる

○総家員二十戸

○人員百廿二人

○馬員十八匹

○掛田村

○上野田（ヤウツケタ）郷扱村
四十八邑ノ
○四十八清水

国立公文書館
National Archives of Japan

○むかし柿(かき)の葉清水○蓮の葉清水○
めざし清水○さゝくしみづ○
三日月しみづ○鮑體清水○
御佛供清水なとゝ宗八の寒泉など
ところどころに名ありしが○今は世とともに
たまりていづくとも知れる人もなく
蛇骸清水○御佛供清水の名のみ
そとるの人侍るを○こゝに掲り侍る○
八十に余りし○高く耳いと
うとき翁の申しゝ物語りなせる○

かまくら橋
はまぢ

○高梨邑

二

余波宇知橋

○高梨村 二 ○里正九郎左衛門 茂木氏之

○此邑東ハ安城寺上埜田西ハ戸蒔東川南ハ橋本畠谷ニて、
安城寺北ハ拂田堀見田戸地谷なとの山中ありて大村なり、
枝郷モ兎郡邑記ニ不。○高梨村総名唱ゑ ○下川原家十一戸 ○福田二戸
○大島十八軒 ○沖田十軒 ○葦坷四軒 ○谷地中二軒 ○一野坪二軒
○五十埜目二軒、九郎兵衛屋敷一軒 ○上高梨六軒 ○繁昌一軒
○保多原九軒、上矢島十四軒 ○田茂木三軒 ○水里二軒 ○下田（シモタ）
中一軒 ○金堀山（カナホリヤマ）五軒 ○米打橋八軒 ○中埜坪三軒 ○麻生田二戸
○新屋敷（アラヤシキ）六軒 ○田屋五軒 ○高八卦一軒 ○田中三戸 ○赤津（アカツ）
羽三軒 ○柳田三戸 ○車瀬九軒 ○北福田一軒 ○谷地添一軒
○二枚橋一軒とも有 ○今ある地名四十六ヶ處の内、数村多し

○上高梨 七戸 ○繁昌 三戸 ○田中 四戸 ○谷地中 二戸 ○一ノ坪
三戸 ○五十目 一戸 ○九郎兵衛屋敷 二戸 ○石持 一戸 ○高八柱
四戸 ○四屋 七戸 ○足掛(アシガリ) 三戸 ○新屋敷 三戸 ○中坪 二戸
○米お橋 十戸 ○麻生田 八戸 ○金堀 五戸 ○田茂木 三戸
○水里 八戸 ○大島 二十三戸 ○沖田 七戸 ○福田 二戸
○沼田 一戸 ○田中 四戸 ○赤津羽 二戸 ○上北柳田 三戸
○獺野(ラツノ) 二戸 ○穂田原 十五戸 ○上八島 四戸 ○下八島 八戸
○車瀬 六戸 ○福田 三戸 ○下川原 一戸之
○田地字如
○観音前 ○福部内(フクベナイ) 大曲ノ保 田名ノ保 ○八枚田 ○千刈田 ○車田 ○早田
○穂屋袋(ホヤ) 庚申塚川原 ○川向鍋倉 ○二枚橋 ○中川原 ○撲関

○法龍川原ゟ々らえたりまゝい鎮守薬師如来の外ニ神社多し
○五十野目荒神 ○祢主 九之丞
○十一面観音 ○祢主 長三郎
○下川原水神 ○祢主 九郎右衛門
○十一面観世音 ○祢主 専右エ門
○稲荷大明神 ○祢主 並 同
○新屋敷正八幡宮祭日 ○祠官川越備前
○麻生田雷神 ○祢主 久右エ門
○新屋敷三社 神明 春日 八幡 雑坐之 ○祢主 郷中祭之
○田茂木ノ社 稲荷 大日 辨才天女 ○祢主 又右エ門
○水里白山ハ咩ノ社 ○祢主 八右衛門

○車瀬ノ山神　○祢主　長十郎

○上八島羽黒権現　○祢主　惣三郎

○米下橋千手観音　十二月十六日ノ夜参詣多し　○祢主　三郎左衛門

合十六社　正徳四年甲午六月廿日所守ゟ於日総社ニ法楽の神楽有りけり

○清応院

○鳥世山清応院といふ古義真言にして青鷹院と云ひしも本山ハいかにやありけん知る人なし　今ハ宝鏡院の門徒となれり　薬師如来ハ行基の作にて古来より守護する寺にて此寺の本尊ハ運慶の作り不動明王なり　世にことに威霊有る尊形也　あるにハ高梨村の薬師堂本尊ハ慈覚大師の御作にて神明宮八幡宮観音大日白山権現在りといへりける　此薬師如来の出来ける

○薬師十二神将社　円仁大師ノ作座像也　此社ニ御紋有神燈有り　薬師如来の竪額ハ国守　天樹院殿の御筆跡也　別当清応院　祭日　八月八日也　○此薬師如来の縁起一巻有り　此縁起に曰　凡阿仁の杜良の岳の薬師仏の縁起にいはく　いにしへをたづぬれば　いつの時代なるを考へ　いふハ吾朝人の出羽国北田沢小薬師如来の降臨ハ四十四代元正天皇ノ霊亀元年乙卯の年とぞ　其後坂上朝臣田村麿男鹿の島山の鬼神退治のため高梨邑に陣をとりたまひしに　そも世八五十代の帝桓武天皇ノ延暦二十年辛巳のとしそのころ豊氏とて異形の人有り　面十六ほどして一躰之此者四問答とて風伯を持ち此伯にて悪風を起して四方八方を雲霧に隠ゐて行方もしらず　仙人麒麟に乗て飛行し白鷹となりて飛て仙人ともに田村将軍を導びきたまふ即薬師の威応之

かくて仙人ハ駒ヶ嶽に皈りたまふ将軍稍ありて見給ふに手の白鷹ハ飛消て行衛なく
鷹無(タカナシ)と呼ばしめたまひしより此地の名となりぬ今ハこれを高梨に作れり高梨ハ姓にも
見へたり田村将軍此所(コヽ)に陣をとりし跡ハ田沢の薬師を過て神田合川を
寄附(ヨヒ)給ひしと云ひ伝ふ有しとて後近き慶長十六年辛亥とし百姓一乱つきしに
薬師十二神将並に安部八幡宮と共に花園津屋(ハナツヤ)に移し奉りたりしが此
度も一乱やむときなれハ花の盛より陸奥の本島(?)の宝殿に近く納め
遷しぬ今ハ仙臺宮城郡国分寺の寳殿に西向きにそむしてありしかハ
此出羽国を守り慕ひたまふにや此西向きの薬師如来の縁起を纂(サツ)る縁起
なりとて其の前立の霊躯薬師如来ハ円仁自彫刻の像なりしに元亀天正
のころほひよりいづくの国の姫君なりしや其姿端(キラ)正しき手弱女(タワヤメ)人なるが其
名ハ萬千代姫とて流人(ナガサレビト)にして何となく此薬師を信じて病を直さんと

古歌なとを吟じ又ハ七仏薬師の咒を唱へ其支怨譲(オンクラス)しあるに何處ともなく男に
合ひて世月みちて男子(ヲノコゴ)を産みける此男(ヲトコ)人となり異(コト)にして名を高八慶(タカハワイ)と自名乗悪逆
無道のふるまひをなし好みて悪黨等と與(クミ)して其の守をも恐れずあらんと
せしか千代姫の其家に髪を白く剃の末て汝子(ナガコ)国守を弑さんと
企てあるを憤り此支急ぎ薬師如来に祈りて此支を止(トド)むへしとて夫そ
若黨ありて萬千代姫たちまちおどろき悲しみ泣き歎(ナゲ)く身をきよめ河の花を折り
閼伽(アカ)をむすび香を焚(タイ)て手向参らせ夜のいとまなく薬師の御前にこもりいのりける
とも此支を高慶悪念いやまし此母を殺さんとたくみて殺(コロ)して其のむすめと
小刀(ナタ)を磨(トギ)まつして忍びかりし母のつくしてゐるをかなきさんまて面をうちて襲(タフ)れハ何か
うれしとや日に添ふ母ハ涼しきあるまじく花の見るをもなたて母をやいて母の面ハくどくの如くなり
是ハとて始さに思ひて薬師堂に入りて見れば薬師の御仏に鉈(ナタ)打入り疵(キズ)付たり此高八慶(カウハツケイ)

涙をはらはらと流し母の前にひれふして悪事つきり懺悔して髪を薙きて
墨に染て母もろともに此薬師仏を信仰しまして一生善心にして霊地霊山に
参詣(マウデ)まうして終りぬ 其母の万千代の栖家の迹を今繁昌村といふは
まんちよを訛り唱ふるなりといふ 堂を作(ツク)りたるなりや高八卦村といふは其昔し
高八慶が住る地にて母子(オヤコ)の墓とて石二つ並て塚のうへにありて 薬師堂
七間四面にて 島世山麟仙寺といひしを今は瑠璃山医王寺清應院
と云ふ修験派にてまたいにしへは宮社末寺社僧僧寺ありて別当末学徒
真光院 ○八幡宮 安部八幡なり 今はなしと見えたり 同学徒末寺覚平寺なり
社僧金光房 同大力房 同順世房 同大黒房 ○神主上佐守 同
宮之太夫なりと云へり そもそも今の薬師は五十六代清和天皇貞観二庚辰年建立此高梨
田沢か 遷幸の年なり 四十四代元正天皇霊亀元乙卯年八田沢薬師階段のことしたと云て

○高梨は郷名にして万千代姫
左遷の地 又その萬千世姫の
住し迹を万千代邑と云ひしが今は
繁昌村と改むなり 其子なりける
高(カウ)八慶が住し地を高八卦と
いふ 万千代姫はいかなる人の子なるか
まやしもあらぬき君なりしとぞ

(甲)此薬師十二神を安置せし
貞観二年小田澤より
遷しまゐらすといへり
薬師如来の額
佐竹義和朝臣御筆なり

(乙)むかしは鳥世山麟仙寺
といひ今は
瑠璃山医王寺
清応院といふ真言
宗派の寺なり

圖書局文庫

○南陽院

○東光山南陽院は曹洞宗派本山は陸奥国相馬円応寺なり
本尊は延命地蔵大士円仁大師の御作といへりいつのころにかありけん
此地蔵菩薩毎夜に出ありき給ふを見る人々恐れけれはその時の
住僧索鉄をもて此本尊を須弥の柱に縛付たりしといふその糸綱は今も
須弥壇の柱に残りて有けり此寺の歴代の住持なれは当時十四世にあたりて
看住僧名宗薹長老といへり
○地蔵利生聞伝といふ記第二巻に高梨の南陽院の地蔵は更すゑ條に
仙北中郡に高梨村の南陽院といふ禅寺の古跡なり本寺は地蔵
菩薩の古仏にて彩色もなく古びはてゝ旧本に坐し給ふ近年の住僧春洞
和尚の代に当寺の本尊は破損しかは無細工なれとも新に作り荘厳なりと

議して金色彩色の大地蔵を建立せんと檀越を集めて相談極り
曹洞宗の大仏師法橋良無方へ相談し来年神仙解毒丸を巡りて
道正庵の家来下益忠右衛門は秋田へ来るを待に十月廿四日来れり
然に春洞和尚諸事物忌せられて暦を見るに今月は十死往亡で
大悪日也当年は先延引して明年を待んと翌年待に十月の廿日に来る
昔は春洞和尚他行のことにて翌年を待て惣金してかかる年度九
重雲頭船後光厨司は木仏宮殿善尽し美を尽して註文を出し
待ちしが下益忠右衛門十月廿四日来る事今度は本尊の御縁日なりとて大に悦び
渡世を渡しけるを此の家に大法師一人来りて拠なく立て
いふに春洞当寺の本尊を新に作りとて古仏は隠居仏となし人に施す方
先隠居して見よ諸人の賞なりとたのみ世にとのりに小佛古仏は衆生

済度ならんとのゝ我当寺に来りて数百年之人の信不信に依て利益
何ぞ意へんや彩色荘厳をこのみなは在家の婦人女子の心に方便
縁は新仏古佛なりと作りかへぬと憤り(イキドウ)給ふ気色にて一首の古歌を
唱へ給ふ　世を救ふ心そ我に有るものを假の姿はとにもかくにもと
春洞夢覚て大に驚きいそぎ人をやりて地蔵菩薩の注文書きを取返し
とどめし　且堂座後光まり調て作りを古仏の地蔵をとりかへに安置し
奉れり　霊験灼然(イチジルシ)と人の知る所なりとぞ　元禄八年乙亥乃秋
大風吹て逆国飢饉の時此寺福僧と知りて南部の沢田の盗人とも
来りて夜中に大法師一人ありてありしる物語りて先を争ふての盗人等
それより八沢木郷の善千(ヅト)鳥蓋(フヌ)村の仁左衛門方へ夜うちにいりけるよし

○当山鎮守白山宮　祭日何り

○別当　山主之

○正八幡宮　○祭日七月十五日　○祠官川越備前正重光

そもそも此神社ハ貞治三己巳年再興なりしことにて舊社ハ本堂土佐守
知行所にて矢島村の八幡宮の社領を給ハりしが後合川とよ
ばれしが即合川の神田を寄附なして神主ホハ河越五郎左衛門尉重国となし
定め置れたり　かくて後慶長の頃より今の荒屋敷村乃神明社辺にうつし
始の神殿ハ本堂家の建立にてとこしへ義麓に坐し諸の御ふその昔の川越重国
代々川越家連綿として土民の闘争一乱の時なりしく累世歴代精正なりき

○中興上祖河越伊豆守藤原重治　正徳五年乙亥五月京
都於吉田官途　○川越佐久　○川越蔵人　○同伊豆守某
安永五年丙申四月十六日　於吉田官途　○當代同備前正

藤原重光　寛政十年戊午四月十三日　於吉田官途なりき

都府内町名
北之尾

○橋本邨

三

鶴田郷穂波　○檮本村　三　○里正　助左衛門　武田氏之

○此邑ハ東ハ留谷西ハ戸蒔南モ亦同留田ハ坐法門清水荻ノ目
羽貫谷地北ハ高梨邑ト中をはさめりこハ郷名として見ゆると
其地名同り　享保日記の枝郷といひ今し世をさめるなり

○鶴田村　家三戸　神祠あり

○福一満虚空蔵菩薩　○祢主　八右衛門

○不二権現村　家九戸　○秋田那猶山荘に富士山村あり

○富士権現社　○祭日四月七日　○祢主　多治兵衛
或説ニ不二ノ神ハ大宮持余浅間木花開耶姫といひ所歴日記にみゆの次
殴々折等も本花開耶比咩とみえたり

○中村　家四戸　神社あり

○雷公社。とりとして祭れり。　○祢主

○雀田村。家三戸。○千州村。家二戸。○中谷地村。家一戸。

○中井村。家三戸。神社有り。

○大山咋神社。をりとして祭れり。　○祢主　惣五郎

○婦氣村。家五戸。一社有り。

○観世音。をりとして祭れり。　○祢主　七左エ門

○稲成村。家九戸。

○稲荷明神社。をりとして祭れり。　○祢主　長右エ門

○田中村。家八戸。

○稲荷明神社。をりとして祭れり。　○祢主　助左エ門

○耳内（ミヽナイ）村。家一戸。蝦夷語良澤（ビルサワ）の轉語なりとも云はれり。

○大山祇社。をりとして祭れり。　○祢主　久米之助

○伊加利。　○内とこ海の営

○橋本。　○どろかわ。

○さしとる。虎杖をいふ方言之。

○總家員四十八戸　○同人員二百四十七人　○同馬員三十五疋

穀田服良純徳 乃 ま哉

○堀見内邑 四

露の夜泊瀬穂

○堀見内村 四○里正 岡谷村 五郎兵衛 飯村氏之

○此邑ハ東ハ杁見内西ハ谷戸地谷南ハ杁見内高梨北ハ福田ノことく様ナリ○郡邑記ニ ○堀見内村家数廿四軒 ○田茂木村 四軒

○相野村 一軒 ○谷地村 七軒 ○夜差村 七軒 ○中屋敷村 十軒

○堂屋敷村 十軒 ○赤沼村 九軒 ○矢名沢村 三軒 ○落合村 一軒

○福嶋村 口八軒 ○内巻村一村寅年本郷へ引移ス居なへともんたり ○今ハ

○堀見内 十戸 ○田茂木 三戸 ○佐戸 五戸 ○内巻 一戸

○柳田 一戸 ○呼瀬 七戸 ○谷地 五戸 ○中屋敷 五戸 ○寺村 八戸

○町合 二戸 ○堂屋敷 四戸 ○赤沼 四戸 ○一森 三戸 ○福島 十四戸

○下谷地 四戸 ○川端 二戸 ○本郷共十六村也

○寶龍権現社 堀見内村 祭日七月十九日 別当修験 龍門寺

○平鹿郡黒川村ニ天水山白旗大明神社あり小野寺宗在世乃時黒沢甚兵衛武運長久のため祈りまゐらし守護社こととなしたまひてより白幡の神とうやまふいと多かる社へ

社地に大擦樟あり周圍二丈五尺回ルといへり　○別当龍門寺

○神明宮　一村鎮守之祭日八月十六日

此神中屋敷といふ所の社(もり)にあり

○熊野三山社　○祭日四月八日　○別当　並同

○藍婆神　此神ハ十羅刹の一名にしてところ〳〵にその神を祢(イワヅ)
男女へたつるなかを八巻子ほどかうける　○祭日四月八日　○別当　並同

赤沼村に鎮座の神也

○白旗社　同村森(もり)にあり　○祭日四月八日　○別当　並同

此村は金沢の白旗纒ひかけぬ春の末白花咲とし白幡(シラハタ)ひかりる神なりや

秋田郡以呂に菅野辺に白幡社あり山本郡脈代の住吉本社を鰕夷平(エソハチ)

八幡とまをて白幡と称することなり相模国鎌倉に白幡社ありそれ

○古記云此八幡宮嘉保年中源義家朝臣草創の神社といへり

鎌倉傳云源頼家所祭厳父頼朝霊ことなへまつりし大沢戸乃

白銀町一丁目に白旗稲荷社ありと沼わ子温故名跡誌に見えたり

○正八幡宮　もとに赤沼邑にありしをうつしたる御神といへり

祭日八月十五日　○別当　並同

○向川寺曹洞宗

○龍燈山向川寺の草創(こし)ハ後深草院正元のころかとか小野寺

宗徳の男出家して建立といへりはしめは草庵にしてその神主(こし)

今猶あり　當庵開基義鳳山起庵主霊位と刻しそが碑あり

仙之之宗徳小野寺稲男某申逃世引退之住庵之文永元甲子年

九月三日とあり此年遷化にやまた近きに世かつしや

年に住(す)して夜毎に大川といふ川の辺より龍燈の登(のぼ)るを見て龍燈山と山の

昔ハしまし川と呼べりしを向川寺と寺の号を改て草庵を起して
一寺となり始りて後いかにし近き年久保田楢山の長泉寺の末寺となる
○本尊古仏釈迦如来 脇士ハ両尊なり 迦羅陀山の地蔵大士
にて円仁大師の作也 本尊御長三尺余り 脇士二軀なり 一尺七寸の
座像也 いまより古仏此寺退転ありし時 歴代ささへかねしを当寺に
当時無住にて此所を寺村にて寺の鎮守に祈れり

○薬師 十二神 ○庵主 向川寺

○正一位稲荷大明神 寺村 祭日九月十日 ○別当龍門寺

○呼瀬(ヨバセ)水神 祭日 四月八日 ○別当 並同

○赤沼観音 祭日 六月十七日 ○別当 並同

○福田弥陀勢至観音雑座 祭日八月十五日 ○別当 並同

○矢名沢大山祇社 やなさわおほやまつみのやしろ ○別当 並同

○龍門寺 修験宗

○此寺は回禄ありしや累世歴代つまびらかならず ○開祖文殊院義賢 ○二世藤元院義永 ○三世寿命院宥永 ○四世本明院永春 ○五世龍宝院宥清 ○六世龍王院宥賢 此代に龍門寺と寺号改めたりし 寛政二年庚戌二月三日遷化 ○七世龍応院宥連 文化八年辛未正月廿八日遷化 ○八世龍応院宥光 閑居之 ○九世当住龍門寺宥舜 序之

○進藤総兵衛某家系譜

大織冠 天児屋根命三十六代 三家卿之息男也 鎌足始賜藤原之姓 正一位内大臣仕之 山田大臣石川呂八代孫也 三家卿ハ和州高市郡人之

嫡女　光皇后聖武天皇為御后也

不比等　正一位大政大臣淡海公房前大臣元云母讃州海人也

武智麿　嫡男贈大政大臣明法道儒士

奥名　次男冬議民部贈大政大臣天下常一帳筆之

良継　三男字合式部贈内大臣奈良御門之臣下之

真楯　四男楓麿兼左京大夫京家元云

内麿　従二位九條左大臣

冬嗣　右大臣従二位贈一位号徳大寺殿閑院元云

良房　従一位大政大臣諱号忠仁東山関白云嵯峨天皇朝之

長良　従二位中納言仁明天皇朝号陸奥守

基経　従一位大政大臣諱昭宣堀川九條之摂政

叔時　従一位大政大臣九條摂政

秀郷　朱雀院朝号俵藤太小山殿云

智常　小山下野守鎮守府将軍

千晴　奥州秀衡先祖之

為任　智常之次男伊豫守

道家　上野守寛元四丙午年造立普門寺

次清　上野守

次房　下野守鎌田之先祖之

成光　上野守

仲光　池田中務少輔

光義　進藤三郎長和二年七月廿七日葬行年五十七法名一山東法

堯光　行年十六歳葬

光盛　左工門尉正久五年十二月廿四日行年六十五逝去法名円山光公

成重　次男又三郎

盛忠　三男三郎

光忠　中務兼徙二年三月八日逝去行年四十二法名心山順春

重時　次男助次郎

光綱　出雲守久安三年二月十二日保六十七葬法名白水道雲

光重　三郎長寛二年四月十日保三十七葬法名一岳全心

忠廣　次男彦次郎

光家　左衛門尉兼元元年正月十日行年五十九葬法名梅峯常春

光勝　出雲守寛元三年七月十四日逝去行年五十五法名荷庵葉公

家長　次男次郎助

光時　三郎助文永七年六月廿六日保世四十八葬法名正林道法

時定　次男藤九郎

光茂　大三郎延慶三年四月廿五日行年六十一葬法名繁山光茂

忠重　次男彦九郎

忠尚　三男藤四郎

光連　左工門尉延元元年十二月廿九日逝去保世六十二法名霜峯雪公

光康　三郎延文三年四月十三日逝去行年四十五法名本庵永心

重道　次男又三郎

光基　三郎応永十年二月七日保世二十三葬法名光峯道全

光廣　左工門尉文安三年八月十三日行年六十三葬法名大屋廣公

光継　出雲守応仁元年五月三日行年四十三葬法名露山道白

女二

廣次
三男助次郎

光晴
左衛門尉明応八年卯月六日逝去行年五十法名輝山光公

光有
三郎天文元年十月十七日行年四十九葬法名月庭雪公

光久
三郎弘治元年十月廿四日保世四十一逝去法名久屋道参

女三

光秀
出雲守元亀元年十二月廿五日行年三十五葬法名秀林清公

忠久
次男助三郎

元次
中務寛永六年五月廿四日行年七十二葬法名天山道公

女三

光長
出雲守慶応三年六月廿六日保世六十七逝去法名忠宗道叙

長久
次男想五郎

女三

光成
出雲守元禄十三年辰九月六日葬法名月山道無居士

猶女
小兵衛奴妻

二女
重兵衛奴妻

三女
佐藤弥五右衛門妻

四女
大山藤右衛門内室

光春
猶男甚左衛門元禄元年十月十日三十死法名海雲浄龍

秀道
六男勘四郎

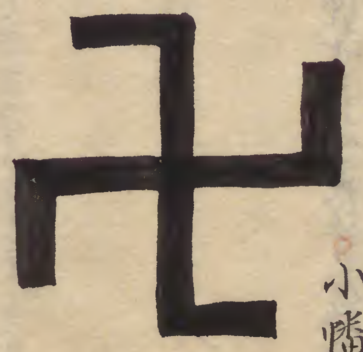
春香

道成

予外ニ藤原の家系譜一巻有り　此巻の末ニ進藤甚左衛門とあり
此系図元禄のとしまて連綿として書継れたるなり　右同前
古系図原本を止宿之し誤ハ不奪れしたりとも之を写す

○次男家

幕紋之



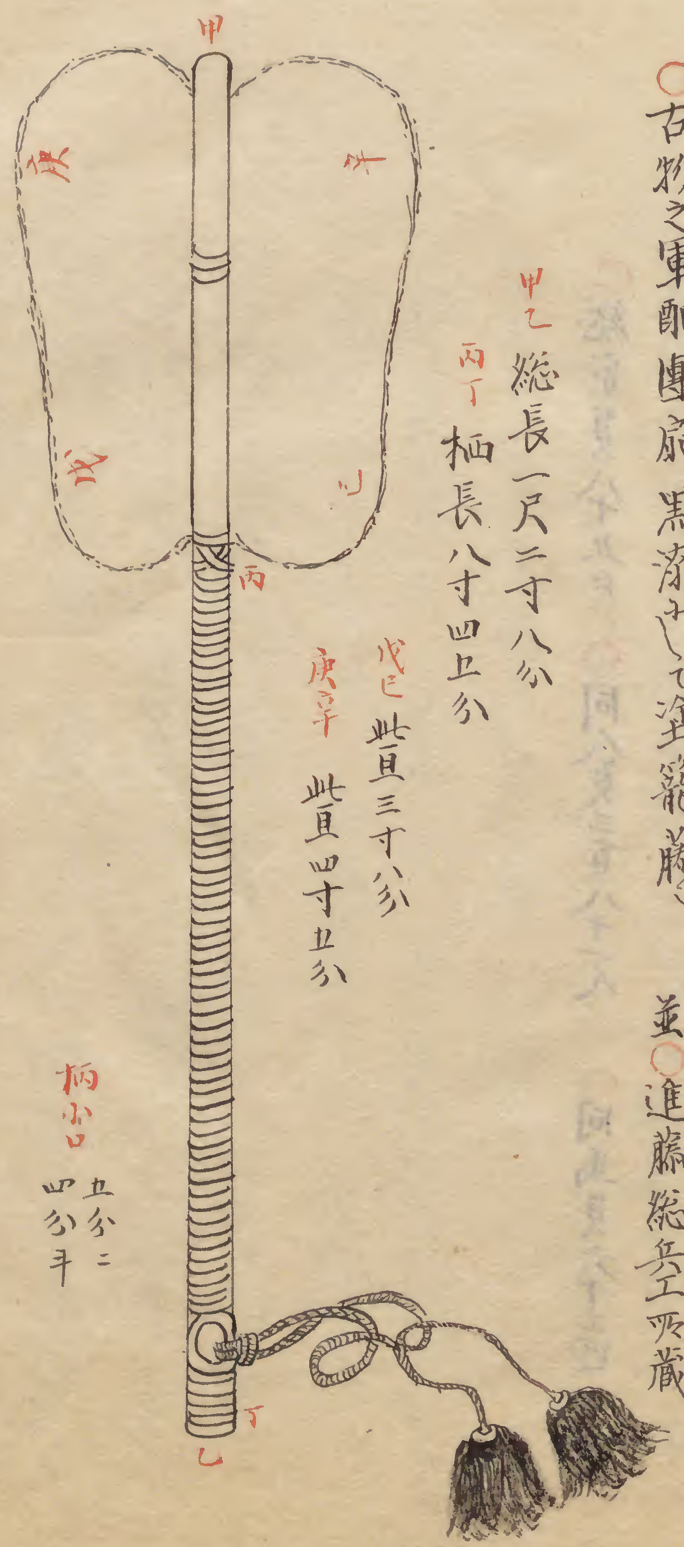
○小幡紋之

延宝八庚申暦
八月吉日
次男 同苗門兵衛
光廣（花押）

○進藤甚左衛門ゑ殿

○古物之軍配團扇 黒漆ニして塗籠藤之

並○進藤総兵工所蔵



甲乙 総長一尺二寸八分

丙丁 柄長八寸四五分

戊己 竪三寸八分

庚辛 竪四寸五分

柄ふち口 五分二 四分半

○此総兵衛ハ次男家ニて正保慶安比より今て出雲守光長の宗家ゟかと

進度想ヶ五郎長久ニ以し人の後胤なるへし千自在無之し

○総家員八十五戸
○同人員三百八十一人
○同馬員六十三匹

此而於ゐ全田
○未紀

○福田邑

五
止

○豊つくし全図

○福田村 九ノ上 ○里正喜四郎 伊藤氏之

○此村東ハ板見内西ハ高関下郷南ハ堀見内北ハ鍵見内横堀などいふ所なり ○郡邑記ニ支郷 ○福田家十三軒 ○中邦六軒 ○後谷地十軒 ○落合一軒 ○喜右衛門村 四軒と見えたり ○今ハむかし中郷とよふ也 ○上福田村 十一戸 神社なし

○稲荷大明神社 ○祭日八月十日 寛保元年建立 ○別当 光明院

○中村家 七戸 ○後谷地 四戸 ○落合 二戸 ○木村 四戸

右名喜右衛門といひし村之

○出ばところの字 ○新右衛門谷地

○堂屋舗谷地 ○内巻谷地 ○よませ谷地 ○やとひ谷地

○大覚谷地 ○ねご田谷地 ○たふけ谷地 ○駒場谷地

○福田谷地 二ことなへたり

○修験光明院四世當住祐善坊之

○大泓の弥陀八幡宮とハ頼義将軍安部と合戦のとき所祈ありしか小天喜五年丁酉のとし獅子剣にて神事の舞獅子一頭を西哥附近神地を会田畠と耕て大婦気谷地と云田地の内の坤と向ひしこのりしか其地しとされと云ふでるめるハやしこきるすハ八そあれ

○總家員廿八戸

○同人員百五十六人

○同馬員三十五匹

○月出羽道 ○廿巻下

○ゑみしのさへき

○橋見田一條

○月のいそ路 [red: 木ノ下]　○仙北郡　○板見内之部

○えびしおやき

○板見内本郷

○属邑六箇村之

○北浦のうきはし　○一 本堂城回村

○間羅のつゞら　○二 板見内村

○十二清水　○三 小荒川村

○浪波のおかみ　○四 土〓村

○七面しらつ　○五 千屋村

○守沢のゆかみ　○六 大坂新田村

○えみしのさへき

○板見内邑　○里正三郎兵衛 出原氏之

○此村東ハ木堂城同戓ハ羽見内西ハ堀見内南ハ押田北ハ横堀
なり六郷ハ南に一里半大田ハ西に一里半なる角館ハ北に三里半
行程となれり板見内ハ段字にして根原も蝦夷詞にして伊多牟
藝奈以の轉語にして字山澤なりたハ田畠なとにもなきところにて有り
伊多牟藝とよそれらが詞に盤なとにかなたハ飯筒をいふこ其地の
岩の形なら澤なりたハ泉なとも飯筒に似たるをもて名付るがいうる所
奈以とハ澤をいふ夷方言にてかくいひど筒の流と云ることとおもひハゆるところに
蝦夷等の家栖なしてしか知れぬるそれらが辞言つたひ残りて出羽陸奥にさきて
多くありしかし世にありと軍のちまくかくその軍労にて板見 堀見 鐙見
るは永慶軍記に見えたり

○京保郡邑記に枝郷並本郷板見内村家三十六軒

○板見内村

○高野家一軒○関口同六軒○蛇塚同九軒○北畑同三軒 長仙寺村 四軒
新関同六軒○小荒巻同十六軒○雁股同一軒○荒関三軒○谷地中二軒○
一森同十軒○善長坊谷地五軒○橋本六軒云々と見へたり○
近世よりてハ大同小異りなるべし奥に記す通

○北畠観世音一村總鎮守○祭日七月十七日○別当○三郎兵衛
○寒泉宮廢の北の方に涌出し此杉に大松生す

○観正院

八景山観正院修験派之累世歴代まて加れとも今ハ修の名目斗を以て北畠観世音を守護しけるとなん

○天満天神宮 同北畠の杜に有り○祭日三月廿五日○別当○並同

○神遮明神 尾神ともいふ○祭日九月十九日○別当○又右衛門

此神蛇塚村に有り昔ある男木伐んとて山に入りし小蛇の一尾出たるを以て討
殺し捨て出たりしところ忽ち蛇の祟れと逃きて家に帰り
来れハ戸口より窓より蛇のおひたゝしく入り来れハ出たれハ
此男おそろしく蛇崇りて是へ分ち神に祭りて神迹明神と称せしハかつてたまる
蛇を埋めて蛇塚といふとなん

○松合観世音○別当○五郎七

○二本松三輪大名神○別当○三良兵衛
そのかみ二本松の三輪大明神を真昼神嶽の前立の御神社といへり

○白山比咩社○別当○並同

○八幡宮○別当○並同

○荒関馬郎観音○別当○並同

○不動明王　長仙寺ニ而ハ古ゟの迹ニ有り　○祢主　専八
此明王ハ東北方ニ新義井ニ有り
○仁井子田神明宮　○祢主　是之丞
○荒巻ノ愛宕ノ社　祭日九月廿四日　○祢主　○吉右衛門
○一ッ森ノ稲荷明神　○祢主　○同
○仁井関稲生明神　○祢主　○権十郎

○霊仙寺　曹洞宗

○釈堂山霊仙寺　本山ハ白岩村ノ雲岩寺之本尊釈迦如来
脇士文殊普賢三等共ニ木像也
○開祖ハ華山外雪大和尚　寛永十一年甲戌十月七日遷化○
二世華翁文宗和尚　寛文十二年壬子八月朔日遷化○

三世日雪祖鷺和尚　同十三年十二月廿八日化　○四世耕岩禅日和尚
万治三年正月五日化　○五世体庵文貞和尚　万治七年二月十
六日化　○六世宝外是珍和尚　天和二年六月二日化　○七
世心嶺宗邉和尚　延宝九年正月七日化　○八世説外皆全
和尚　元禄十五年七月十九日化　○九世久屋端昌和尚　宝永五年
三月廿三日化　○十世大安昌語和尚　宝永三年八月廿二日化　○十一世
宸山猊流和尚　享保十二年十二月廿日化　○十二世蘭岸猊芳和尚
宝暦二年正月七日化　○十三世蘭堂恵日和尚　明和八年五月
二十五日化　○十四世角成庸牧和尚　安永四年正月五日化
十五世寛仲慈門和尚　寛政四年十月十日化　○十六世恭賢両
満和尚　文化九年五月二日化　○十七世当時現住恭善和尚也

○枝見内村

○當山鎮守秋葉山大権現 祭日 ○別当 山主
○並三寶大荒神 二座 ○別当 並同
○今有り枝郷家員
○枝見内本郷 廿八戸 ○世にいふを称して八千苅田と字せし地也 ○高野
主ゝ高屋 小作かり 二戸 ○荒巻 十四戸 ○仁井子田 一戸 ○仁井関 三戸 ○関口 十一戸
○百目木 七戸 ○善長房谷地 五戸 ○一ッ森 五戸 田の中に木ありと
包まれたる森堆の如くにて有り、いかなる事にやあらんと名付しと言へり ○苅又
主ゝ雁股 小作かり 六戸 ○荒関 七戸 ○長仙寺村 五戸
○三泉有り
○北畠清水 ○仁井堰清水 ○長仙寺清水 此三泉の中にて此所義井之
○小河有り

○此水元ハ大股川河口川の両川落合まて、横澤邑の南にて二瀬の水此落會一筋に成して此村をいふりて西に流るゝ小川にて井堰の類いろあり
○古跡舊地
○長仙寺といふ字地有り。是ハ河邉郡楢山の長泉寺ハむかし此地より
虫迄しる寺なりしが今ハ長泉寺に兆れりとぞ
○善正といふ字地有り 此辺ハ今六郷に有る吉水山善證寺の遺地といへり
されど六郷に吉水山善證寺といふ一向宗門の寺東西と二流合ひ
いづれの寺にやあらん、本堂城回村にと吉水とて吉水山善證寺乃
寺し跡有り寺こといはしへハ此有りつか多く有りし地にや有りきと
○奇談話の事を
○文政十一年戊子の六月三日の事なるに 枝見内の支郷一ッ森といふ所の長右エ門が
○枝見内村

睦万太といふ者を始め市左衛門又七郎といふ男三人大股沢といふ山
渓に分け入りて水麻採るに此三人が菅笠をぬぎいちはやくおりしにそこ
にもし水麻の多かるをさきまうれバおのゝ友の如きへ男二人来りてよわど
揃しが許ゝ語る人は汝等ハ是ゟかへらんと云て老翁一着をこそ云ふ者あて
かゝる猪を云むかや否や笠を押へつゝみ揚るやうに抑れへし後にかくてあゝと
おもふまゝ真昼の嶽の山頂迄過ぎて行くに真昼の権現の所迄お
と遁しと思ひ入りてみ言して行き家の如し二人の者ハ万太へしと声をかけり小
呼んと呼べとさけびよばへ共帰れハ峯をさして飛ぶ如く走れハ卧居て大股かハ道二里斗り
有らむ真に行しハおそろしき木どもにかぎで杣山賊とえこゝ迄あがると人々ながれて問へと
そのことさぶらへ人もしらぬ小碑ひろし人のしらぬる事れハ此二人の男かへして
里に連れ帰りて板見内の一本林村にまで覚て一本林の村なり医師の家に

連れ行しがとかくそのまゝにおちしてそのあとすでにあとに万太のみかへり来
菅笠をとれバ四つの爪跡有り摑れし其指のたけの事を知るべし其時に此人と
云ふ天狗なるの戯れなりし事の有なしまれあやしき事どもとかく語る万太と
今ハ是好り土民となりてくらしをなして日ぐらしを暮らしとなんかゝる事出来る所也けり
○江源武鑑といふ書の七巻に弘治二年ニ月廿日乾米女正の女房天狗に
捕れて今年廿一年に當て古郷へ皈りて異國本朝名誉の事ともを語る中に
朝鮮國の金羅道の光朝子と作りたる狗犬記の事を語る其由今日観
音城に言ふとて依之屋形の後見義賢が仰として近日観音城へ
召入らるべきよし仰出されけるとなん日本神社考下六巻僧正谷に
貞和五年出羽國羽黒山伏名雲景者将往天龍寺遇老山伏
于西郊景与共登愛宕山見一座中有異僧彼告曰是所謂玄昉真済

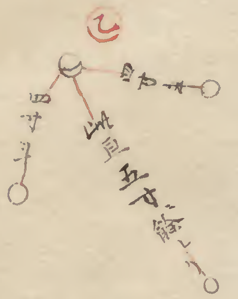
○板見内村

寛朝慈恵頼豪仁海等之其上座ス者於路帝井上皇后武着
衮龍ヲ繍日月星ヲ或ハ持ス金笏ヲ崇徳帝為金鵄ト展ニ大翅ヲ源為朝
横ニ弓矢ヲ侍リ其傍ニ後鳥羽院後醍醐院皆同席ニ而在ス各談ス世間治乱
興亡之変ヲ景将ニ帰ラン老山伏告曰ク是太郎坊之所居ニ景如夢而醒其身
惘然在リ于大内旧迹椋樹下ニ云々とみえたりちかしき事ならねど（今も御門
あるとふことしてあるは化天狗に大天狗小天狗木葉天狗草天狗の品あるよし
曰ふなれのみならずあるといひて此真直岳にはむかしのよすみぬえ本堂村の男ノ
太き鳥足の赤き大人を見てより今は不見ことと廃人となりて行かたしらずと語りし

○總家員九拾四戸　○同人員四百廿七人　○同馬員七十五匹

○八月十日は此村に済ましとき板見内といふ處を折句の旅なる　真澄

いくちまち田は八束穂によりかさね并て御民のにぎはひをしりけれ



（甲）化生ノ化迹（乙）

○万太が被りし菅笠はくせうがさといふ畠谷村の産なり

畠谷といふ村にて綯ふ笠なり角館の笠より品よかれど自然ともすれのいとくたきとよくも骨あらき造なり

此裏呂智ノ祠ハ慶長元年丙申の秋へと
創めとぞり
甲 新跡（シムサク）明神・蛇霊（ヲロチノミタマ）く
乙 蛇塚村の 丙 鴨脚菓木の
主とふ斎ある御社之
丁 まろち像ハ
楷の木生ひたり

甲北畠ノ觀音
乙菅大臣ノ社
丙神木ノ大杉
周回二丈半
丁勸正院修験ノ舎

此道一行驚

○本堂城回村　　二属邑

乃ち紀

○ゆきのうしろかた

○本堂城回邑　一　○里正　嘉兵衛（進藤氏）　吉左エ門（星山氏）

○此邑東ハ元と本堂西ハ排田抜見内南ハ土崎北ハ土森(ツチモリ)田(タ)留(ハルケ)
小堰邨ハ古城なり本堂出羽守吉高朝臣の後流(スヘ)にして府城(スツリ)
旧蹟(フルアト)にして其城外の村なれバしかもて本堂城回といへりけれバそとし
元本堂を称へたる村にして北なりしか春日野鶯がむかしといへる名処なり
されバ是より村上下両村(フタムラ)なり又鶯野氏と此地(コヽ)を創(ハジ)めとつへてりてなれ
片田舎(カタイナカ)なる鶯がむかしなのみしめひたる名なりけるものゝ陸奥(ミチノク)国に鶯(ウグヒス)の関なり
山城国小倉の池なり大和国小倉山なり此処の名の鶯を嫌ひ来とされどもそ
名にむかしの倭訓栞(シナリブミ)小田舎詞ハたゝみてやゆゑ玉葉集小鶯
多くありの巣かてそゝてどもなれみつる方なハ鳴ぬものなりとなりて
なれど関東の鶯ハ其の音賓なくされバ世に和大(ヤマト)の小倉山のなきをなして

○本堂城回村

其音を賞せりといふなりつき月日星と鳴常に神路山にて八日月
星を晦けとぐといふ又西土の鶯は大に異なりとぞいかにとなれば諸鳥啼に
新たなる風土なりて変化するなるにてかれど遠江の秋葉山路には
其声清く大和鶯に勝れる鶯ありとし皇都人の諸わけ又三河國額田郡太平村
の西に一ノ滝二ノ滝三ノ滝といふありて東照神君の御代にとし毎に
一ノ沢の鶯二ノ沢の鶉三ノ沢乃判竿とて献りし三河雑記といふものに為
きうぐひすなどもやこもにすこしに鶯山のうぐひすをおさへしずらし
はじめて六世うぐひすを此の鶯をよく囀るを轉めでさうせしまへ鶯此は
鳥の鶯なるを鶯といふ木のなかにいへる人あり大かたは物類称呼云く此を
木は吉野梨子樹に江戸にてうぐひす京にうぐひすの木伊賀にて救荒木やに
急麼子和名うぐひす云々とみの此中は鳥此常つ名ならぬこといへるなし

出羽六郎観音順禮記数本ありその中に遊行上人十九世なりける
上人春日社の別當藤性坊同神官大須賀人見正ノ家に旅宿して
詠歌あり　鶯の聲もつらき八相まし長閑に知る春日の林
今若林村といふ所の内に春日社ありて不断に鶯生といへる旅宿する若林村の
小字に元本堂より本覚寺と城を引移して天文四乙未年の頃は領地にて治めて
いまだ家栄へて折しも出陣なしにて永慶軍記十巻に最上奥仙於堺目合戦の
條に六郷城主二階堂長五郎正乗同金沢権太郎次本堂弥六郎云々
また小野寺小五郎本堂孫七云々同十二巻小野寺と秋田合戦といへる
條に天正十六年閏五月三日角館九郎盛安六郷長五郎正乗金沢
権太郎本堂弥六郎云々同十八巻最上攻破於仙北畏をといふところにも
本堂楯岡六郷金沢大森浅舞なとえくら見えたる家々の名蔵に

○本堂城旧村

本堂家ノ奥方ハ手筥アリ其外箱ノ蓋ノ裏ニ本堂伊勢守殿奥方
御手箱」其下ニ細字ニテ仙北郡本堂落城慶長六辛丑年ニ右之
嫡子本堂右近同七年牢人常州松岡城主戸澤右京亮殿奉公ト
ミヘ白石武鑑云源姓本國出羽本堂内蔵助親康八千石在所常陸新
治郡志筑 江戸ヨリ廿四里 ニ住スルトイヘリ ○東光山本覚寺ノ迹アリ吉水山
善証寺ノ迹アリ此寺ともハ六郷ニ今有リ土浄一向宗ニ本覚寺古ハ真言宗ト

○春日大明神 一村鎮守 祭日 七月十九日 九月十九日 ○祠官 伊藤伊勢正
○神明宮 ○八幡大神宮本殿雑座御神也 ○祠官 並同
○金勢 亦作金生 大明神 堂作ニ有リ ○祠官 並同
○稲荷大明神 馬洞ニ小形ニ有リ ○祢主 佐左衛門
○神明宮 田町新堅ノ時齋内神也 ○祢主 久兵衛

○稲荷明神 同処内神也 ○祢主 並同
○大日如来 中北町ニツ小形ニ有リ ○祢主 与七郎
○稲荷明神 内神也 ○祢主 三四郎
○八幡宮 後町ノ内神也 ○祢主 門三郎
○稲荷明神 同処内神也 ○祢主 吉良左エ門
○大山祇社 寺舘城ノ内ニ有リ ○祢主 嘉兵衛
○稲生明神 同処ニ有リ ○祢主 並同
○稲荷明神 同処ニ有リ ○祢主 与五左エ門
○観世音 同処内神也 ○祢主 藤八
○北舘観世音 ○祢主 嘉兵衛
○雷公ノ社 百目木村ニ有リ ○祢主 助左エ門

〇枝郷

〇田町本堂向 家員五拾戸　〇此村ニ清水六泉有り

〇後町家員十四戸　〇此村ニ吉水と清泉二ヶ所有り

〇寺館家員二十一戸　〇此村ニ清水一泉有り

〇百目木家員 六戸

〇田畠字地

〇吉清水 〇後町 〇一本杉 〇宿田 〇馬ノ腰 〇島田 〇観音堂 〇西館

北館 〇八日川 〇館間 〇道尻 〇百目木 〇城方 小屋ノ畑 赤崎

〇飛沢 〇馬場 廿ノ町 〇あと田 むかしの城下なりし頃此辺ニ御町有り

〇械ノ跡とぞ

〇大股川よりの分水和無川とて一筋の流れ此水にて田地を潤す事なし

旱魃(ヒデリ)の年ニ此和無川の水を引くニ、本堂ハ二日二夜、本堂城回ハ一日一夜の定めなりといへり

〇好井九泉(シミヅ)

〇此九泉(コノハシミヅ)の内 日生山清水ハ妙義井之又大清水とよふを梅津家士星山源蔵と云ふ屋舗の要水(ツカヒミヅ)也

〇春日明神　〇祠官 伊藤右近正良

春日大明神ハ長治二年ニ大和国奈良郡より遷座ス所神ヲ岩林寺の田の中に奉田ニ祝し祭る也

〇春日大明神を勧請し本堂伊勢守殿御在城のときの所領守の神なりし御神田と有りしが小野寺の頃延享の頃今の節伊勢守より所領地廿一ヶ村を下様ニ而務なされ代々是を持むといへり

〇上祖伊藤伊勢守此先代より相つかふ 〇二代目但馬守 〇三代目伊予守

政次明暦二年丙申七月十一日於吉田御所受領 〇四代目伊賀守

本堂城回村

政芳元禄十九年五月六日於御本所受領。○五代目和泉守政治
正徳六年於御本所受領。○六代目瀧之進。○七代目能登守正則
寛政九年五月六日於御本所受領。○八代目福太丈之。累世年
続の家なれハ古記録にも伝りぬ。○当時九代目保孫右近藤原正良。

○總家員九十二戸　○同人員三百九十七人　○同馬員九十八匹

○本堂城回邑脱漏（チボ）

○六野燭談云。小西曽兵衛先祖ハ関ヶ原崩れにて此御國へきたり民間に
くだり本堂村に住居。同所の城主関東へ退出の後六郷へ移り御国替の
頃も当代まで十三四代相続しよし。身に奢事なし。常に叢庭
なる客対の所なり。菅筵をとつてそこに書物ハ見せ候へ共古語に
蜈蚣の出るハ死すれども倒れずといふ事の多き故ことの覚へとつまるに
申されけんといへとてかうかへし。櫟尾（尾ことに添へ佐）西鳥羽小西鷹嘴なりし有沢谷の
内の人なりしと語り伝ふ。本堂村にその小西のむかし家の跡とてある同御座あり
○かの星山（シミツ）の家主（ヤトノスケ）星山源蔵とて梅津家の臣なりしも今ハ南部斯波の
所に安藝守殿の御内（ウチ）にて星山左馬允某といひし武士（モノノフ）天正の比なりしへ
斯波安藝守殿没落の後此出羽の本堂に落来りしが今宿の辺なり

五郎作本堂村荒川六兵衛耕田念仏屋敷の甚吉なと四人より落来りしと
今一人を誰なん行末をしらすといへり是を考ふるに松前の西浦に乙部と
いふ所ありそこにもむかし南部の落人住そめしを祈りてそれを斯波殿の郎等乙部長
蔵なといへる人もありしといふことをきゝつ
○来増川（コマサリ）といふ小川ありて本堂城回村より枝見田に行に小橋ありて本堂枝見内の畔
河に大瞭より落て水上は吉見川といひ此所ありてこそ流るゝ川といひしと本さよ所
となふ其むかし本堂家御在城の時洪水にて此川に駒の死入り水に沈しかは
出来（イテ）しといひて駒の流されしとなりしかりまた川沿の方ちこちにや不知と方言（コトハ）に
此までの川の末は松田村にて落て烏川（カラス）の名に流れるなり

（甲）本堂家の城跡は
大山祇神社ありそか
内には木花開耶姫と
こゝろして棟札なり
（乙）館といふ處は本堂村の
城なりしあたりといふ
なりへいむかしの城中は
こゝみな今は畠と成れり
（丙）菊霊（クサヒトカタ）此藁人形は
いつこの村にしまても
草二王なとこゝろひて
うつるかへしつゝさる
ものからこゝろのかはりとなき
やうなるましとせられして
作りおかしく

○星山清水

○星山泉の由来よりは○本堂城回北脱漏の内斗汸ぐらし○

○星山寒泉は○甲本堂城回町内六泉の内の大泉なり美井く○此泉は乙星山源蔵と云士の御小涌いづるその地佐竹義隆公此をめでてむかし給ひし跡とかや○丙我さしてまかりしとせん○其恩賞として冠木門建あきらか仰せかうむりし○星山氏小丁枝葉の名木あり星山清水は戊大清水とも名にし負く流るる○

大和國春日里の社に祭神四座
武甕槌神齋主神天津兒屋根命
姫御神これより攝社あり

此社の傍に道ありそれを
春日ノ神の本ト宮有これより
まつ賞りていで若林地の
中路なりし

春日大明神
長治二年の
遷座之その地ハ
元本堂村に
在るべし

春日ノ神官伊藤右近家
ありし神門の傍に
萬靈と立さり

東
甲
乙
丙
南
甲若林野山中道ハ六郷より角館への往復の街路也
乙春日明神の舊社地あり其あとを春日堂といふ
丙鶯野といふハあたりいつまでもミゐ中中の路をさしてきみくあり今ハあへてまう林野をいふ

北
戊
丁
丙
庚
西
丁茶店の邊より戊湯殿山また岩木山の石を立てをうぎの神といつぐ己遠くに見ゆる眞晝嶽また庚近くに本堂城回りとの村也

若林野眺望

春日埜ハ金剛界大日如来の種子石あり
街道往復の東ハ春日野西ハ鷺池あり
真畫岳千矢の小杜り山そ又えらる

此春日野の舊社地東西百四拾間
南北八十七間西ハ角館街道
東ハ野形堀上之とあり
舊本補陀洛巡拝古迹記ニ帝七十三代長治二乙酉年
六月大和國奈良郡より春日大明神并ニ山城国より
多門天を勧請す 多門天ハ本堂家の鎮守と
せいへり是鞍馬の毘沙門天と一躰分身之
同書に私ニ云ク春日ハ今ハ若林野といふ在の上畑之
當地より路より下タ土崎林地の通ことも つくる

まづきいの
かはらの
まち

○羽見内邑　二　属村

籬の蔓

○羽見内邑 二 ○里正本堂城回村並同

○此村東ハ宮内村田畠畷西ハ枝見内村田畠畷南ハ枝見内本堂城回今宿三ヶ村の田畠畷北ハ横堀川原田畠等ノ畷也

○春日大明神　本堂城回邑の鎮守也其子一村の鎮守の御神とともにいはひまつるといへり小郷(ムラ)の名本堂城回村より加入の一郷にしてかの強首(コハクビ)村より福部羅村のかよひ路也

○前田家 三戸 ○下河原 一戸

○城井堰水源

○大股山川上山横沢村の南ニして落合一派となりて横沢村畷より東ニ流る小川也

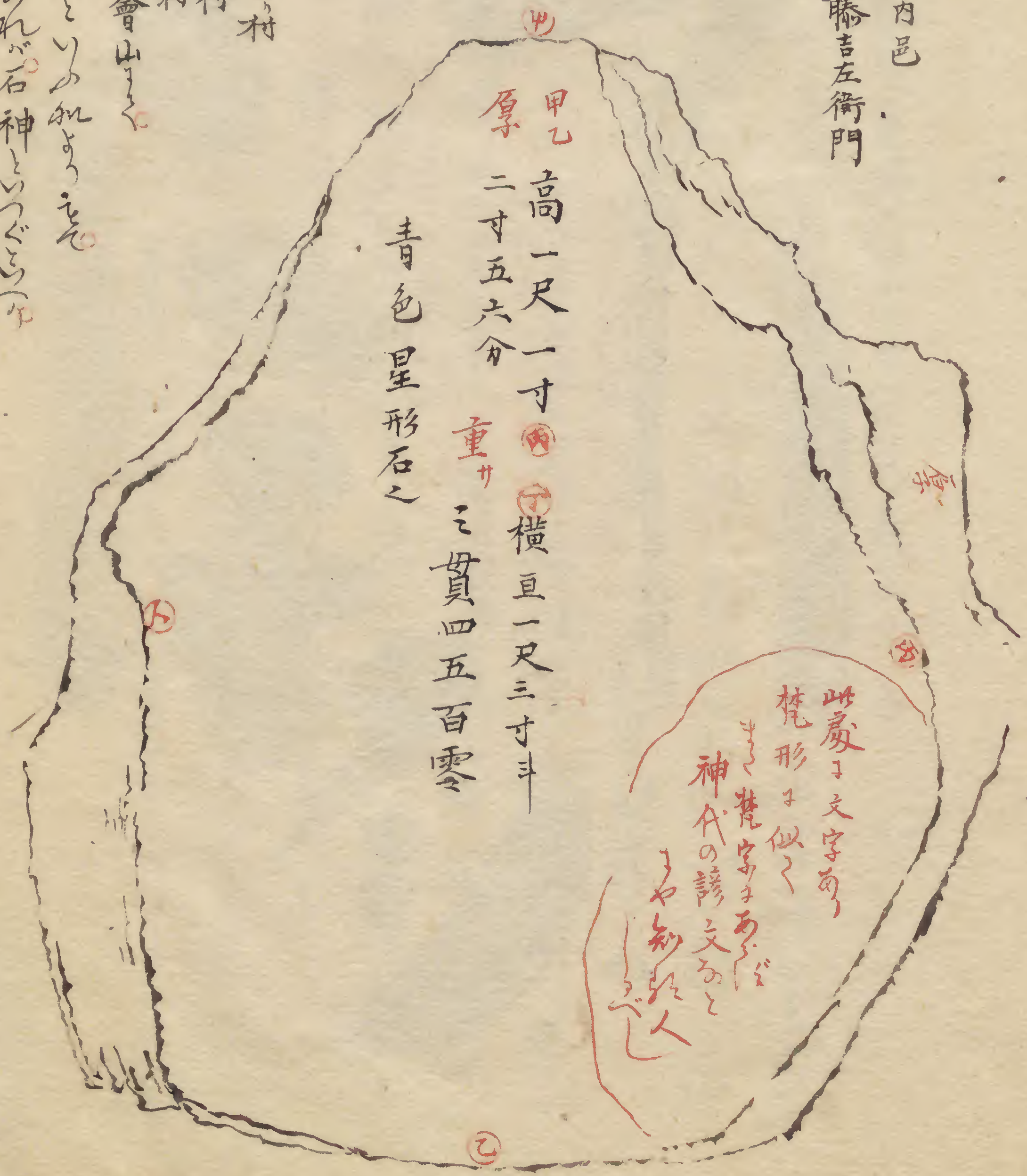
○總家員四戸 享保日記ニ六戸とあり

○人員廿一人

○馬七匹

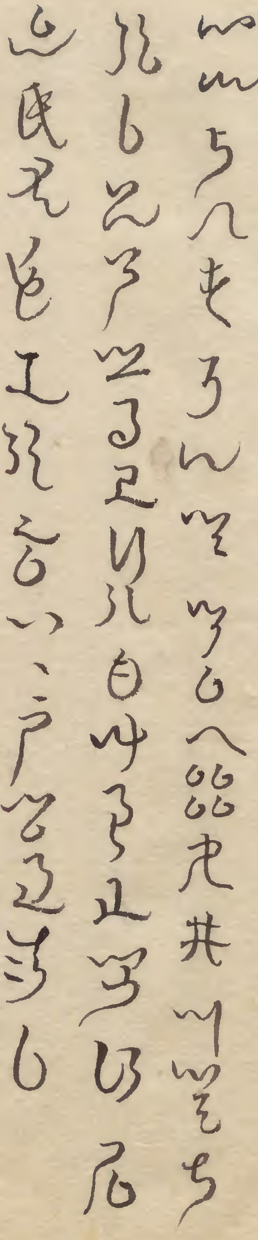
○石神

○斎主 羽見内邑 佐藤吉左衛門



○此石ハ○本堂城回り村 ○元ト本堂村 ○板見内村 三个村入會山ニて○藤の森といふ所より出る○文字あれバ石神といひつたへ○

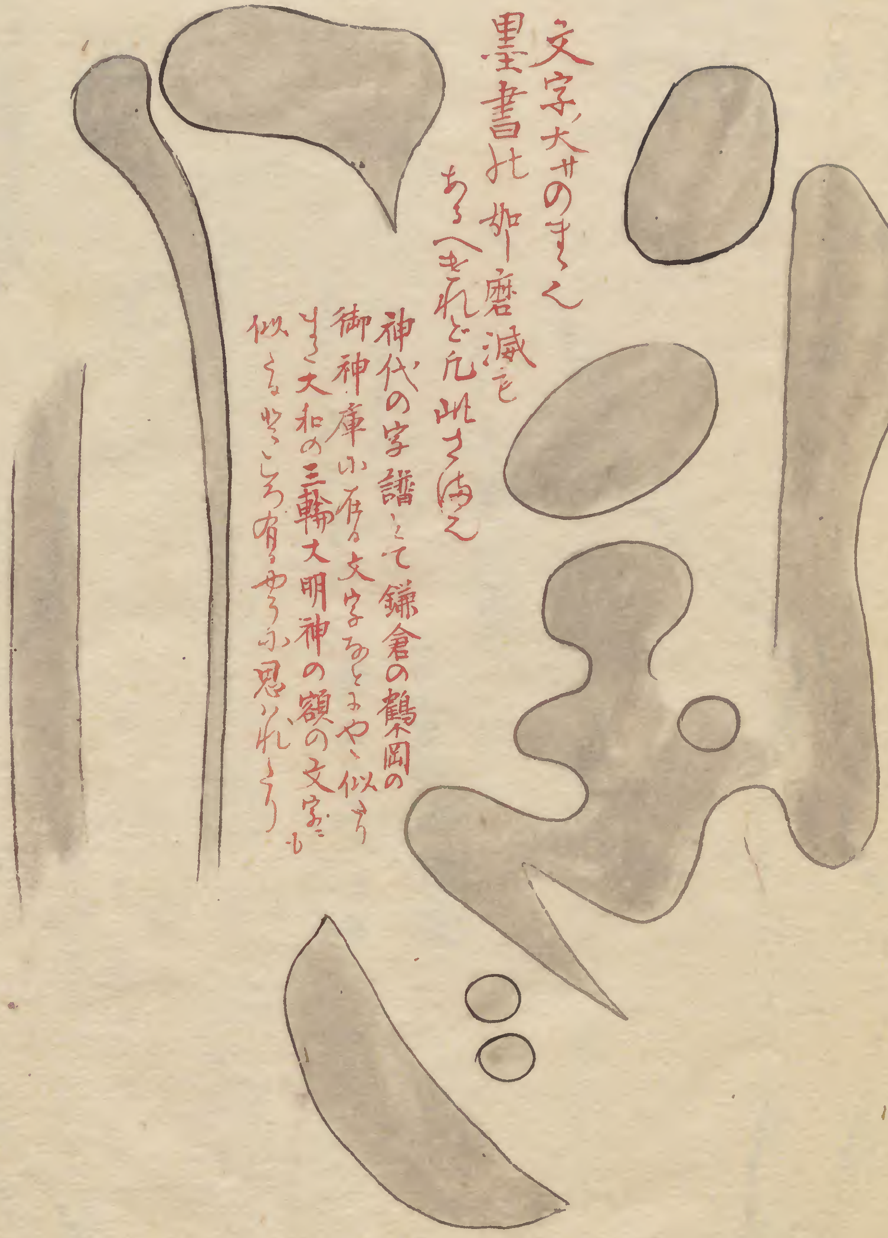
藤原貞幹好古日録本巻云古文



右四十七字原本鹿島神祠傳フル所ニシテ世ニ寫シ傳テ神世ノ文字トス按ニ此文字ハ八紘詳史ニ載ル所ノ苗人ノ書ト絶テ相似タリ決テ苗府ナ寫シ傳ル者ナラム詳文アリ論スルニタラス」云ことも見えたり

此古文鶴ヶ岡ノ八幡宮ノ神庫の古文といふものゝおほ似たり

其より原本ハ鹿島ノ御神庫は模寫せしにやあらん



十二清水
つま寺

○小荒川村　三　属邑

十二清水

小荒川村　三

里正　松太郎　佐藤氏之

此村東ハ千屋西ハ土崎南ハ中野北ハ本堂城回村と中ヶ村り

小荒川より八神社あり本堂城回の館神大山祇神（或ハ木花開耶姫を祀るともいふ）祭日八月十二日此御神を一郷の鎮守と称し

木花開耶比咩一郷の産神と称する　祠官　伊藤伊勢正　称主　郷中

酒造祖神大山祇神酒解子神ハ神吾田鹿葦津姫ハ木花開耶姫之神代巻吾田鹿葦津姫ト定田を以て芳て狭田

とふ其田の稲を以て天甜酒を醸て之を嘗しめふとみへたり

十一面観世音　祭日四月十七日　称主　赤兵衛

十二清水之しへ下二村より家仏之し跡ト存す寄家之

総家員十五戸　同人員八十一人　同馬員七疋

小荒川村

須波田の初穂 乃ま記

○土崎村 四 隣邑

諏方旧乃ゆへ下

○土崎邑　四　○里正条之助　○熊谷氏之

○此村東ハ千屋小荒川西ハ排田南ハ中野上新田北ハ本堂
城回からの村ゝ小中ゟ移り○享保郡邑記ニ○土寄一軒○久留田一軒○
諏方田三軒○横関七軒○天橋川一軒○林野越一軒○栄谷川九軒
○砂子田一軒○下川原三軒○長面一軒○館村二軒○谷地中三軒
○四野子一軒○八卦一軒○館内四軒○新寺一軒○田中一軒○六木
塚二軒○相貫谷地一軒○寺屋敷二軒○上館一軒○十二村一軒
○蛇野口一軒○野際三軒○中村二軒○本屋敷二軒○北小屋九軒
○橋本二軒○飛沢九軒」と云ふ○道世八○久留田一戸○砂子田一戸
○下川原二戸○長面二戸○八卦一戸○館村六戸○横関二戸
○谷地中三戸○天橋川一戸○四ツ子一戸○館内三戸○新寺四戸

土崎邑

此新寺村享保の御験地のとき三井寺村と前[illegible]の内也 ○林腰 二戸

○中屋敷 二戸 ○野際 二戸 ○中村 三戸 ○橋本 四戸 ○松ノ木 二戸

○飛沢 四戸 ○北小屋 五戸 ○上栗矢川 二戸 ○下栗矢川 八戸

○関根 一戸 ○本屋敷 一戸 桜郷 三十村の内より上館村並す

十二村此二邑今は廃村となれり此村新墾の時秋田郡上崎の浜より

久保田に入る矢嶋を所々の人来りて開きしより名附し地なりと云道き

[illegible]りの名なり 今ありて有りき

○林の腰の寒泉 此清水を見上げて一村ゆうなり田を作るとて

○磨子川 乃元は六郷東根の山をとより始下井田村に流るなり

○諏訪大明神 一村鎮守 祭日七月廿七日

[illegible]諏方田とて神田となりし[illegible]

○別当 甚五郎
与右エ門

○林腰 正八幡宮

○三井寺 薬師如来

○飛沢 神明宮

○林腰 稲荷明神

○別当 助右エ門

○別当 正右エ門

○別当 十右エ門

○別当 清左エ門

○梵形碑 野際村にあり

○総家員七十三戸

○上崎邑

○同人員四百十三人

○同馬員四十五匹

花岡清人

以来記

○千座村　上　属邑

○花房志づ

○此村東ハ善衛山ヨリ限リ而南部ト風倉女神大峠真昼山まで ○千屋邑 五 ○里正 藤兵衛 坂本氏之 東四郎 細井氏之

西ハ土崎道ト小荒川大川ト南ハ中野河の前後入會境金沢東根の田

地内小堰を境ひ又笹峠より磨森まで木落際下ハ鋼鉄分堀切ト本田

畠分明キ通り木林まで見通シ境之北ハ大坂新田分柳原まで年々元

本堂道ト之よりへて此千屋を仙谷千谷あるハ仙矢ともいひ又

千谷氏ニ而此邑よりや産をも千屋ハ古千箭之そのかみへなしハ

天一千唯矢の義にして八幡太郎源義家朝臣祈願ありてうち包た

多くあひまじりて此地に居てハ白岩明神の御前にむかいて千箭征箭

千度遠投して大沼の岸に立て射手酣なりしとふ其ところ此方峠を千本源

ふ是より村を千矢とふ名の剣に此沼ハ内邑清水つ東北寄りて此杉井に

○千屋村

末落入れり今ハ沼も浅荒となりて千箭沼の名のみ残れる人これを知る者なし
○械水寒堰堤の水元ハ善鳥川留切南村に流れ田地にかゝりその外
小松ヶ崎山赤倉此二川の瀬大坂村にて落合一筋となりて鎌渕留切
にて北村小落流れ田地に入り沼に流る
○川原田家一戸 ○座頭ハ五戸 ○谷地中ハ五戸 ○上ノ邪同八戸
○内村同七戸 ○村中に清水あり此水東の方千天沼に流れ入る也
○下相野同廿戸 ○荒町ハ十三戸 ○村中に清水涌く也
○餅田同一戸 ○大屋敷ハ十三戸 ○此村ハ寺の北にして宮の前なり
○荒屋敷同八戸 ○花岡同十戸 ○村の南に小清水あり
○菩提沢同二戸 ○上野ハ十戸 ○門目ハ四戸 ○小花同七戸 ○間野
長根同二戸 ○善知鳥ハ六戸程 享保郡邑記ニ善知鳥村家員三戸内一

軒ハ御番所南部御取立といふことなり又金渕を今鎌渕と作り座大を
座頭と作り保臺津を菩提沢と作り作り鎌渕今ハ数村となれり也

○浄福寺

○杦沢山浄福寺ハ一向宗派中山ハ六郷ノ善証寺之当寺の開祖の
俗名ハ唯之の唱へ作へて由緒とすへきにはあらず本寺の院号をかり用ひて
開山とし信頼とよふ当時十八世 ○現住受現之

○四泉といふあり

○内村清水 妙蓮井之

○荒町あらゐ

○大屋敷しみつ

○花岡清水また真山清水の名あり

千屋村

○大日如来　小茂子ニ在り　祭日四月八日　○別当　重四郎

○白山比咩　上地子ニ在り　祭日四月十七日　○別当　藤四郎

○龍神社　同処田中ニ在り　祭日四月八日　○別当　藤兵衛

○大日如来　阿所村ニ在り　祭日四月八日　○別当　惣兵衛

○龍神　門目ニ在り　祭日四月八日　○別当　与右エ門

○稲荷大明神　天竺沢ニ在り　祭日正月十日　○別当　五三郎

○大山祇神　善知鳥山ニ在り　祭日五月十二日　○別当　仁左エ門

○小森山勝手大明神　祭日四月九日　○祠官　佐藤中務丞

此神社ハ旧社地ニして一郷の総鎮守の御神にて元来籠守勝手ハ二社にて

諸社一覧五巻小勝手在于芳野郡吉野山祭神一座

愛髪命　伝未考　天照臨降之時三十二神相添而奉天降すり

次ニ為護国後見被下之云々愛髪命ハ勝手大明神之

師兼千首　「三芳野や勝手の宮の山烏神につかふる身こそ心ありけれ

同書ニ籠守社同吉野山ニ在り大宮三座住吉同躰と云々

根合集ニ「吹はらふ風ハ山の吉野の秋ならで勝手もしらぬ神風

小森ちふ山名文字に見れども多く古史の外なり秋田の金峯山の麓小勝手社在り

此神社ハ無等良雄禅師の草創と云ひ伝ふ此良雄禅師ハ松泉の補陀

洛寺の二祖俗姓ハ万里小路中納言藤房卿にてこの山に閑居しみつびに出て

於焉地を見られたると語れり又諸国一宮の内籠守神社ハ羽後国平鹿郡

に在りまた此千矢ノ郷の籠守の社の縁起といふもの一巻ありて伝へたり

それも子守山千箭観世音の由来をかつきて人皇卅八代天智天皇

白鳳二癸酉年の御鎮座にて安置し奉る本尊御長一寸八分聖徳太子の御作にて

○千屋村

開山ハ南部桂清水の住寿院より入院之院主ハ参教院則光祖の福
羽寺之山社境内東西百二十三間半餘の松林生ひ茂りて神宿りて
蕃紀霊山之神殿七間三尺四面にして大條鬼武殿の所建立之と奉り
大宝二壬寅年散上義明公願書をなして武運長久の祈誓をこめ玉ふ
其後和銅六癸丑年松岡豊穂麿殿建立ありまて天平勝宝七乙
未年戸澤語部少輔殿御造立延暦廿四乙酉年安倍一朝斎殿
造立之承和七庚申年菅野入道殿一戦に負て当山に入院して
妻帯の身となりして山寺なりかして後三宝院之宮に見えりて法して清く
真言派となりて大光院と号しふるの仁和三丁未年の建営ハ總檀越
より寄附これに依て日に繁栄となりまして観光院より廿六代錦々
別当なりしが宝治二戊申年に小野寺氏此寺にて明て神官職なり本社を

を捨て實母の家苗を名のりて佐藤山城守藤原正義朝臣と号す
此時七葉樹一もと在って庭に植て此木を鷹山と号て錦秘蔵なりし太郎を
宮よりまかりなれり神職連綿たり文治四戊申年吉野山に勝手明神
を遷して鶴栖の上段に松一樹をうへて此地を小倉として此処に祢宜なり
此松則神木なりいづれとなく在して霊験灼然所山にかくて大
正十四丙戌年神殿一宇本堂併覆守殿造営なり慶長九甲辰年　佐竹
義重公御先中田中越中殿造立のち大塚九郎殿建立てかく
に後は一郷の人々再興なりしといふことへ了り
○又此佐藤の家は御山寺院宿舎の累世歴代
弘安の頃より連綿としてその後乱佐藤与殿にて
秀衡に出したる家譜なりてハ此左方紙葉なり

○籠守山千簡観音別当天台宗
聖護院宮補任貞(タイ)蔵南部浄法寺住清水観音別当村住寿院ゟ入院之僧也
○忝教院福翁寺

○同住清水別当ゟ大宝三年入院
○重宝院福翁寺

○同住清水ゟ和銅七年入院之
○徳正院福翁寺

○同住清水ゟ天平三年入院之
○天覚院福翁寺

○同住寿院ゟ天平勝宝八年入院之
○当明院福翁寺

○北上山正観音別当ゟ宝亀元年入院之
○観行院福翁寺

○同北上山別当ゟ延暦二年入院之
○福泉院福翁寺

○同北上山別当ゟ延暦廿四年入院
○作法院福翁寺

○同北上山別当ゟ入院此寺 弘仁四年田村ノ宮建立 貞観山三輪大明神社
○永寿院福翁寺

○同北上山別当ゟ承和十一年入院之
○大光院福翁寺

○天安元年
○春養坊法印
須賀野入道逸産当山に籠りて則別当と成る是代より真言宗派三宝院の末流として其子妻帯宗と成り長行坊より天安元年其男名跡として春養坊とかはりしと云ことゝ也

○貞観十四年三宝院宮御見大覚院と号ス
○福翁寺春養坊

○仁和四年上京御見
○当観院福翁寺

○延喜三年上京御見
○明学院福翁寺

○延喜廿年上京御見
○光洞院福翁寺

○承平七年より廿三代間無官無住
○福翁寺山王坊

○康和元年別当之
○福翁寺山王坊

○天元四年別当之
○福翁寺山王坊

長徳三年別當　福翁寺山王坊
長和五年別当　福翁寺山王坊
長元九年別当　福翁寺山王坊
永承六年別当　福翁寺山王坊
延久元年別当　福翁寺山王坊
永保二年別当　福翁寺山王坊
永長元年別当　福翁寺山王坊
嘉承二年別当　福翁寺山王坊
永久五年別当　福翁寺山王坊
天承元年別当　福翁寺山王坊
天養元年別当　福翁寺山王坊

永暦元年別当　福翁寺山王坊
承安四年　別当　福翁寺山王坊
文治四年若宮勝手明神ヲ小森里ニ遷宮アリ　福翁寺山久坊
建仁三年将軍地蔵大士ヲ花岡里小安貫ニ　福翁寺山久坊
承元三年玉野稲荷大明神鎮座　福翁寺山久坊
元仁元年大山祇社建立　福翁寺山久坊
文暦二年水神社祭始ル　福翁寺山久坊
宝治二年庚申塔建立　三月七日次才福泉坊花岡里ニ入院ス　福翁寺山久坊
仁治三年社地遷代ル　西ノ方ヨリ南ノ方ニ同リ　福翁寺山久坊
弘安十年小野寺式部外始テ神職ニ其男ニ　佐藤藏守孫泉正義朝臣
佐藤家守護ノ其宜山三輪大明神ノ祠官ニシテ是ヲ鈴木孫八郎ニ際ヒめさせ也

○正安二年嫡子伊州ニて神官となる　○佐藤図書介正晴朝臣

○延元二年嫡男神官（於伊勢太夫号頂戴なり）　○同宮太夫藤原正貞

○延文四年嫡男神官職なり　○同宮太夫藤原正勝

貞治九年養子となりかくて後真白山神職のともハ鈴木氏ニ係りたりし小
当代の宮左太夫正国ハ小野寺家の老臣ニて嫡男三歳の中義ニ石隠れ
小依て豊臣役孫八郎ノ子宮左郎ニ真白山の祠官職を由緒ニ古ヘ
此本書ヲ別家ニ渡し印判等ヲして鈴木氏ゟりと添状文中ゟりと有り

○永禄三年嫡男神官　○同宮太夫藤原正光

応永十一年男宮左太夫正盛早世親属ゟり養子をもて世二第ニして同宮宮太夫正久ニ

○文安三年　○同宮太夫藤原正久

天文元年嫡子ニ續其子早世次男ニて名跡天文廿二年其嫡子ニて相続ス

○寛正五年嫡男早世故親属より継之　○同宮太夫藤原正信

天正四年多病ニ依て本堂伊賀守殿の
老臣の嫡子神領五石持余ニて然より佐藤家
の名跡となり佐藤正賀是也

○同山城守藤原正賀

○慶長四年嫡男雅楽外乱之　○同宮太夫藤原正清

○元和八年嫡男主計　○同宮太夫　正頼

○寛永十六年男宮之進　○同宮左夫　正友

○明暦二年嫡子早世次男継之　○同宮左夫　正安

○寛文十六年五男藤目乱之　○同宮左夫　正重

○延宝六年嫡子中務次之　○同宮太夫　正経

○元禄元年嫡嗣友之進　○同宮左夫　正長

○寛永二年嫡男氏弥　○同宮太夫　正季

享保元年嫡嗣早世故五男継之、赤黒澤村ヨリ佐藤家後見来

十八歳ニテ宮右郎同年ニ名跡タリ

○寶暦三年嫡子宮右郎　　○佐藤越前正藤原正康

於吉田御本所官途

安永三年嫡嗣宮松相続早世故天明五年娣女婿来

山口氏ヨリ名跡来ニ継家

○寛政九年官途為神主免許　　○佐藤豊前頭　正命

○文政三年嫡子早世故八男継之　　○佐藤右膳　正通

○文政十年名跡右膳官途為主早世　　○佐藤千里丞　正則

○文政十二年千里丞早世故実兄継之　　○佐藤中務丞　正瀧

當代祠官累世家譜[illegible]

○御證文ありうつし

小森観音へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

金十三両[illegible]

[illegible]

申六月廿七日

田中織部　判

福寿院へ

御棟札一枚

聖主天中天迦陵頻伽聲
奉加造小森觀音一宇大旦那
田中
越中守
哀愍衆生者我等今敬禮
慶長第九甲辰 八月吉日 大工 井富兵

慶長八年癸卯九月十七日籠守ノ社ニ所奉納御神劔二尺二寸分
寶壽作 佐竹義重公御寄附之其御代より いさゝかの鉄錆あり
名劔のきこえありや

勝手社御神寶
神官
佐藤正胤所藏

○天正九年丁丑九月十七日
躑躅にて制作る鼓ノ古胴あり
本堂源七郎寄附之といへり
また外にさる物の假面十二面ありしが
今いづら失せにしとぞ

○黄金阿弥陀如来縁起　○佐藤正胤所蔵

○出羽國仙北郡千箭庄小森里北神官佐藤氏の家に黄金の阿弥陀仏を
座りそは小松内大臣重盛朝臣の護身仏なりといへり寸八分の立像重三千泉
一分零其由来ハ治承四年のことより平重盛卿楽船にてみちのく今ハ小八部の七瀬ヶ浜に
漂着岸なりしをそれより西の方七里ばかり山奥にして島森ヶ山地上へ一梵刹を建立なりて
是つゐに小松山重盛寺と号なふ如くして重盛卿の舊臣澤代喜右衛門尉某
真木市右衛門尉某その外なにがしハ地着の土民を頼りて田畠を新墾ありしに便
中引りて耕へをこ下して累年里富の家豊饒に其後亂入今を強りて分国かりと
なり重盛寺十二世の住僧をそ心道和尚とりかへ當国岩井泉ノ三浦肉兵衛と
いふる郷士の家より座て此寺に住職なり其和尚の舎弟小吉田玄康とふ
醫師なりけるとき實見の和尚の寺に来て問へば小松大臣卿此寺に寄附其

御宝物の品多かる中に第一に閻浮檀金の一寸八分の虚空蔵菩薩、第二に玄風
村雨の鼓、第三に黄金の阿弥陀仏(長三寸八分)、第四に青篠の横笛、第五に解脱(至宝)
などいふか希代の重宝なりしに備さに兄弟内縁なれバ、そハ小松内大臣の護念仏黄金の阿弥
陀をば吉田玄康に授与ありて、吉田玄康永禄三年庚申の夏松前へ渡
りて恵備夜許多年といふ浦に居住して医業の行ひとゞけしかバ、いつしか名跡に
男玄順其子玄達に至るまで三代を経て徳次といふものを縁類の方より
貰ひて医療なけれバ魚漁のみにて世わたりをしけるに、元文三年松前騒動て
ちやうさいと此御仏の御誓によりて身につけたる事なるを、まれ由緒来書は箱に
内で村長に頼み置、此村長丹右衛門朝夕信仰浅からざりけるに、何しかも是を人の望と
ゆかりありける者なりしを、丹右衛門が家に無道の者ありてかの御像を盗出で
此御像を往浦の京にとて売りて此仏は我が家の賓へとしてあやしからず、券等とかりて

當なる利潤の金にかへ渡されけるに、此仏は返りへしかさりけるとの
たゝりにや、浦々のこらず集り来れとも此文なき故ひ募りてすでに
宮中にも言上へつくしたりしの騒きなるに、文政二年三月の頃ばかり
瘟疫流行ありしの人々多かりし、此病に死すれもありしと死せるもの多かりし
かくて吊くせるものなくて往治の狼の手に屠に呑ひをまたれまい、深涙はすける
さるなりと習ひかちかしまゝ吉田玄康の家を継ぎかくしとしのさす行れし
されハこの仏像出てけるにこれに譲れりけれバ行末長き誓約を吉田の家にて
住つかしに主に仕る老母のみと生て此世にたゞ命のうちにあらまほしかりける者など
頼りあることに、これにあれバ、今はとて文政八年十月廿日、父母の家を去て一人なる
母をともなひてつかまりて、一とせ二とせと立けるに、文政十一年正月元三日神主沢藤重雄
神ありしかば、今はわが家の跡を継て松前に行ことかなひけれハ小松内大臣の御念仏ハ今

此そではの此千矢莊小森社の祠官佐藤止胤がもとに安置ありしを
阿弥陀如来の木の縁起といふ有れど回禄にかゝりたり古老の口傳に残
ところを書しるしおきぬといへり

○總家員百廿一戸

○同人員五百十七人

○同馬員九十匹

○籠守勝手千箭沼之圖

(甲)勝手社(乙)子守山(丙)千矢沼則山久坊舊宅ノ迹之(丁)御光ノ松

(戊)みてぐらの庚申名(己)こそろが澤

(庚)桑の浄(辛)小清水の浄

(壬)古木堂寒泉水神

(癸)大椽の木此木の異名を九山といふ之半天河水あり

(阿)鷹待山(伊)萱嶋

(宇)大條鬼武 古城

(要)神官佐藤氏家

○麻呂山と名におへり七葉樹(トチノキ)は康和七年に菅野入道一戦に敗走の後此山の別当と
成りしと記しるせるとかや子守ノ社も白鳳二年の御遷座に森児守子杜などに旅れども
吉野山に籠守とぞ見えたる○勝手明神は文治四年ともに芳野山よりうつし奉れり
○東の方に乗の澤あり大山祇神を祀(マツル)かりし末にみやびろが傳とも又山城國に
御菩薩(ミゾロ)池あり似たる名也○昆に臺長峯と云所も子守の旧社地観音跡也
○小倉社は勝手明神の社地(ヤドコロ)を爲りまして著しく此処を昆に出て大隆鬼武に移りし
識山ありまし○枛館と云處もむかしひめことかいとあやき姫の住給ひ後は枛と
化(ナリ)て我等を志へんとて今の世までも枛御前の館枛館なども云ありまし
○中の館と云處あり中條治部介の館ありまし○千箭沼は義家朝臣征矢(ソノリヤ)
を投射(ナゲヤ)て白岩神に手向まし射操の跡(イクバトコロ)今は戊にあせたり天下の始なるなり
端正(キラクシキ)丁女夏で神官の家(モト)に来りてとしへらては此地に住してしかども見明ことの

子守神本祭は
九月十七日也

國に行かましき思ひよかりしに此所(トコロ)地より出る酒掬(シリ)し社に参りたふちかは神官
ゆゑていふことと行ぬ女性の此所にのぼりに今まで住てありけれそを問へは吾は此身は彼は
經むかしの方の千箭(チノリ)の大沼に五百年まりも住(スミ)しが浅(アセ)に成りければかのふるきあと
たのまれは鎌淵に移りけれども此水もまた淺しとあせ分りことを出なれはかくて神官
かきてハ本身(オノガミ)をあらはしてさらばと移りて別れぬ其夜明方は雨風ふきて雷(カミナリ)鳴とゞめまで
其尺廿尋(タケハタヒロ)ありし大蛇(オホヲロチ)となりて空を飛て去(イニ)きと語り傳ふといへり
○幣(ミテグラ)の庚申石は高さ三尺斗此石頭より切割(トリサキ)たる形の割目(サマワリメ)溝(ミゾ)の如くしてありけれは
三尺斗(ミサカマリ)の玉串に伸へてある是は猿田彦(エ)大神の御幣(オホミテグラ)にしたるなり
○勝手祭は四月九日也し大祀なりしが今は中祀の祢(モノイミ)こといへり
○子守祭は十二月十七日にして皇祖(トホツミオヤ)は僧侶にて本地垂跡をことはふとて
今もなり此日名主方神官の家に一村の老若あつまりて大臼を場にすゑて鬼(カギ)の祭り

うたひまひてはやしたてゝ拝み奉りて饕攫ぬ綵衣うたひ飲ひ酒飲ひ豊明しける由と
述ありけるかゝる事は神の好ませ給ふてうへ禁めて明まてうたひ給ふは
物語なり是を観音のわざとし哉し奈といふ 仁

宇都野の穂波

以 末 阙

○大阪新田村

六

属邑 此

一

ゟ坂道のかゝし

○大阪新田邑　六止　○里正小三郎　○新田氏

○此村東ハ山際リ西ハ本堂南ハ千屋北ハ黒澤野堺ゝ　○又川ハ

水源ハ善知鳥清水川小杉崎川萱堰清水赤倉川此四川此村ヲ

流るゝ　○享保郡邑記ニ云ク元来元本堂村ニ而山坂也不自由

寛文十年戊三月七日御黒印を給ふ大阪村と名付[illegible]ところ

昔此郷およびし村そ家一戸ありしか今ハ廃村ニ近き世なれハ大阪新田

と唱ふ又大阪ハ山坂を附名なるへし

○高野家一戸　○枚郷　○田野澤家貟四戸

○宇津野家廿五戸　○狐森家六戸　○久墨家貟二戸

○谷地中家一戸　○荒井家一戸

○神明宮　北佐多伊か在り祭日　○示主　孫左衛門

○大日如来　高野か在り祭日　○示主

○總家員三拾九戸

○同人員百七拾人

○同馬員二十五匹

内閣文庫

内閣文庫

紙數 八十五

八十五

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan